

1866

函 / 2  
第 2



幸田成友

門 〇 12  
4353  
卷

四月十七日  
見三



母にせしむるぬかうしわしなすは  
 女にの里よしはりしきそまわす  
 けわらむせむとていひたぬめいなる女  
 りかすすむらむにたむかひにたむ  
 せわおもむしはるしとありしとわ  
 眼さるありし神のたまひなりしわ  
 男のきくわらぬうわきぬ乃はうをわら  
 ううけうあそむるうわおとこ志乃よは  
 濃わわきぬまなむきさるるるる

かひりのくわのむすむ乃すわら  
 志乃よは此の神のたまひし  
 とは舞をいひききしひやまらるは  
 にもはたしともやたひん



みるるゝの思ふもらすわさゆへに  
 見せしうもみーわさふるなごよ  
 定しふさおんりんなわさー人をめく  
 いらぬまきさやひをなんーくお  
 むーたさくあわけりなる乃京はふ  
 神の京ハ人乃い急まさくたはさるわ  
 多敷時に西落京月一 女あわらわさお  
 女世人一ハまきさりらわさる人かさ  
 うわは心をむめさるうわら敷りらわら

もつしをわけししうれをわのまめたせし  
 うらもおわさしひそかづりまきいかに  
 なむひん時りやよひのはいしらあを  
 みるスリやまらる

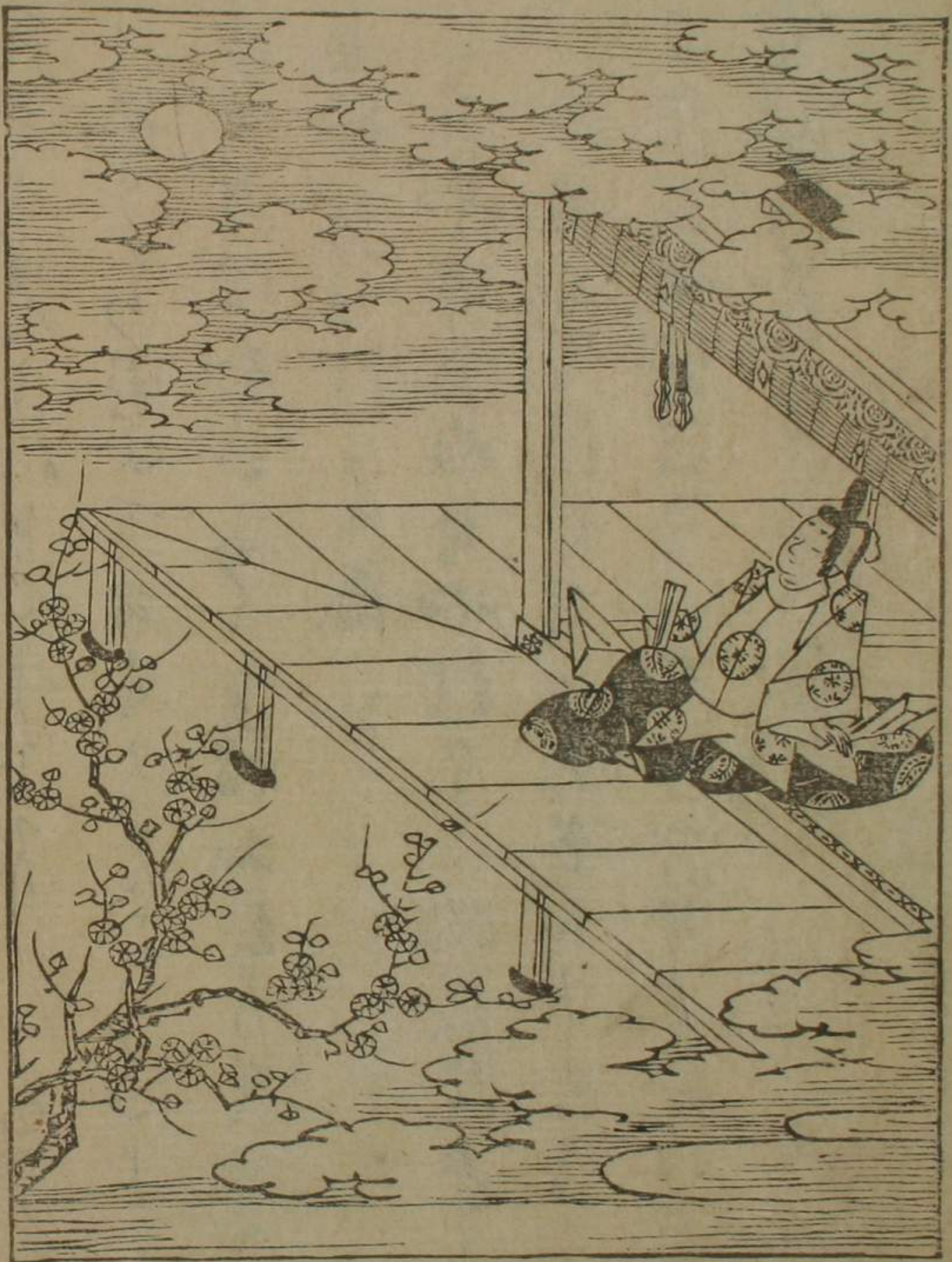
春のものともなうめく〜は  
 木あもさひひもさるるはのまきを











昔たごころわらわぬんーみよ茶まごわ  
 有しやーのひそくまもわこうらあり  
 ところあれいかとらわもまいつくまらハ  
 へ乃あまゆけたうつひち乃くはまもわ  
 かすひくわ人志げふもあつねとつひくを  
 かわくたつたあーまいつけたうお、ひ  
 ちよあこと人にまのくまもせはれを  
 つけ中もえゆりくつわらわさくよあ家  
 人志まぬわ、かすひらのせまもわハ



よしととつらもねなさん  
 此よりわらわの心といふうらやまけ  
 里ありゆるしぐわ三原此ききたり  
 一乃ひてまいわらわ成成乃きこり  
 乃神の習うとたらのまもせたまひけ  
 候とす

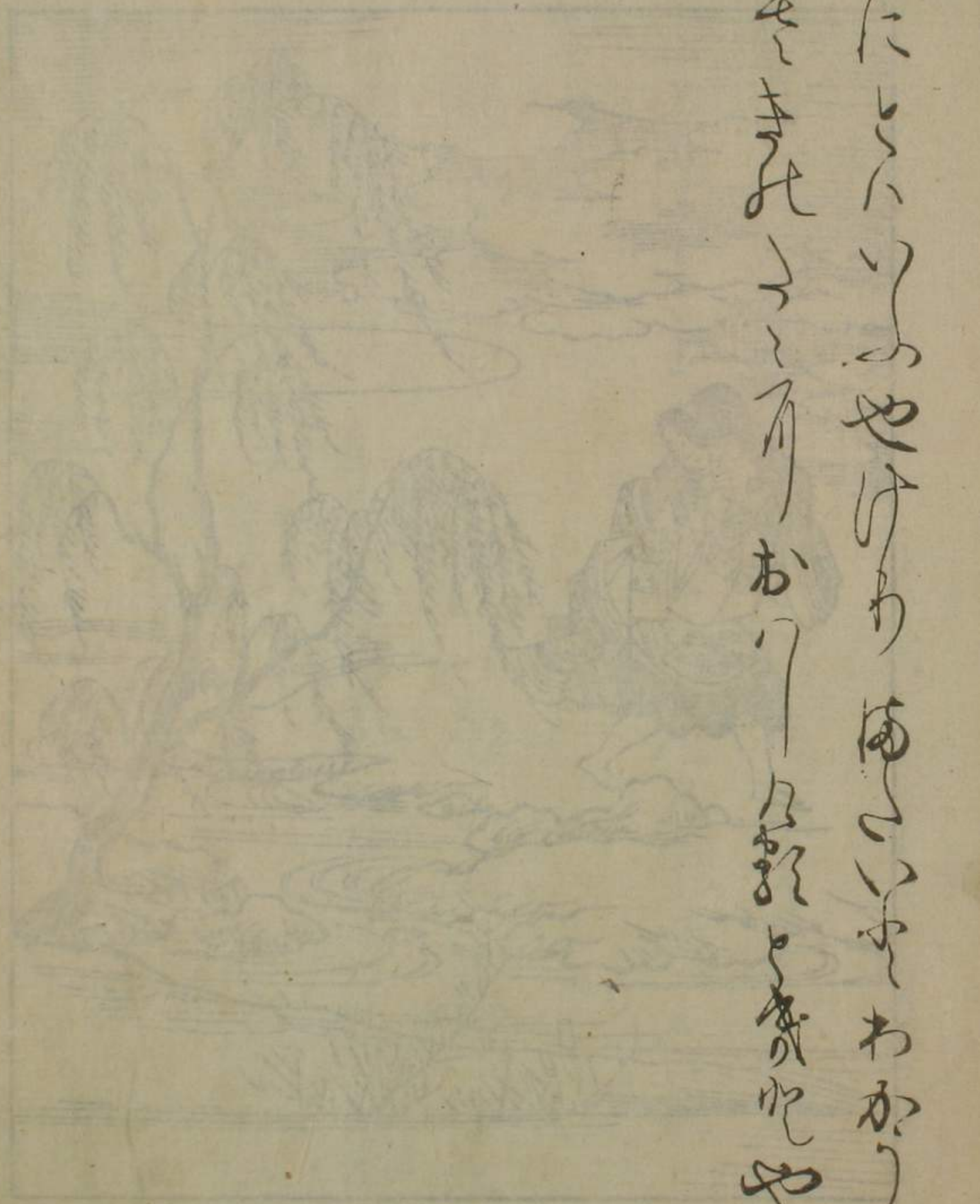
昔たゞとあわたりをんふのえいし  
かりくろ数年をてふよりひ里うわん  
をうううてぬはえ出てつとく死よ  
くわあくた何とつあをを井々しき  
冬くきのうん有りをたむらぬ城か  
いなふうとたんたやこノとひル  
て死おほく衆もあれよ久神へおに何  
とも志うるんさんしきし  
面も伊ううあわん神へありし  
田舎くうに

女をばたくと物しおとこゆ  
ふくひはおひとくらしきわん  
もあけなんとむひはくわん  
おにりや日やららよとひてくわあ  
つひはと神とあさよえあのさ  
くまおあく衆もあけゆくし  
井々こ志をんなもあしわ  
しんあけとあひし  
志うあうたうと人のとひ

我此こころきえふ海一もれま

神ハ三條のたをきまれいやこの女侍の  
もくにほかうまのふやうもくぬ給つわけ  
海をうたち乃いやうたたくはる志ハ神ハ  
ぬすんそたひてつそくわく海をいぢぢう  
とほわかたのおやうた羅うと有りつ祢の  
大油う海こ下ううそ肉へまより給ふよ  
いみうぬくひをあらをきつげてとく  
うくとわか海したまうてくりうれ海かく

おたこころいふやけり海いんやわかうて  
たをきまれこころ有りおつ一と歌と我此や





母〜男あり 女あり 京あり 何里あり  
 世にまに 心記 夕夜 十の巻 亦あり 里のあり 心  
 此うみ けしき せむくに なるん 乃 心 志 海 心 大  
 つま 見 ころ

心 せむ ころ 返り かく の あり 心 せむ  
 うみ けしき せむ ころ なるん 乃 心 志 海 心 大  
 と なるん 乃 心 志 海 心 大



昔たとしあわらむ京やひえうめりん  
 お所ま乃めさふゆふてしに家もむとそ  
 とも呪しう人むらりぬうりくを遊まむわ  
 志ふのくたあきまみむけりけあの  
 此たら成んそ

志ふのたりあさゆ乃だけよの煙  
 をちこちん霞こやあとのえぬ



昔男のりりう法男が成さうなま物も志の  
 あつて家も人あつた志おほまはかこにけせ  
 へ乗りこたもとめにとるゆふうわもどらわ  
 とも世にう人ゆらわぬたわ志ていさふる  
 みら志進ぬひともしるままをいひたけわ  
 見かた乃とまやけりといふ可ふはわ  
 ぬうこ世やけりといひは教を水行何は  
 ともでた神を志を居つる大せ候まらわ  
 てた世やけりといひは教をたきハのか

とわみ本懐うけにおわのえりきつひくひ  
 常わろおさいはよあまほれたつとわもし  
 ときたもあうれを思そあひ人のいへく  
 きほいたとつひつらも一城くのえんす  
 有そつひの心をよめとつひくかへさ  
 かう衣まほれあれすつま志あまひ  
 え敷くまぬるつひ城一我思ふ  
 此よりあはれをいぬ人かきつひのうんふ  
 後おやしそわとひ可なり



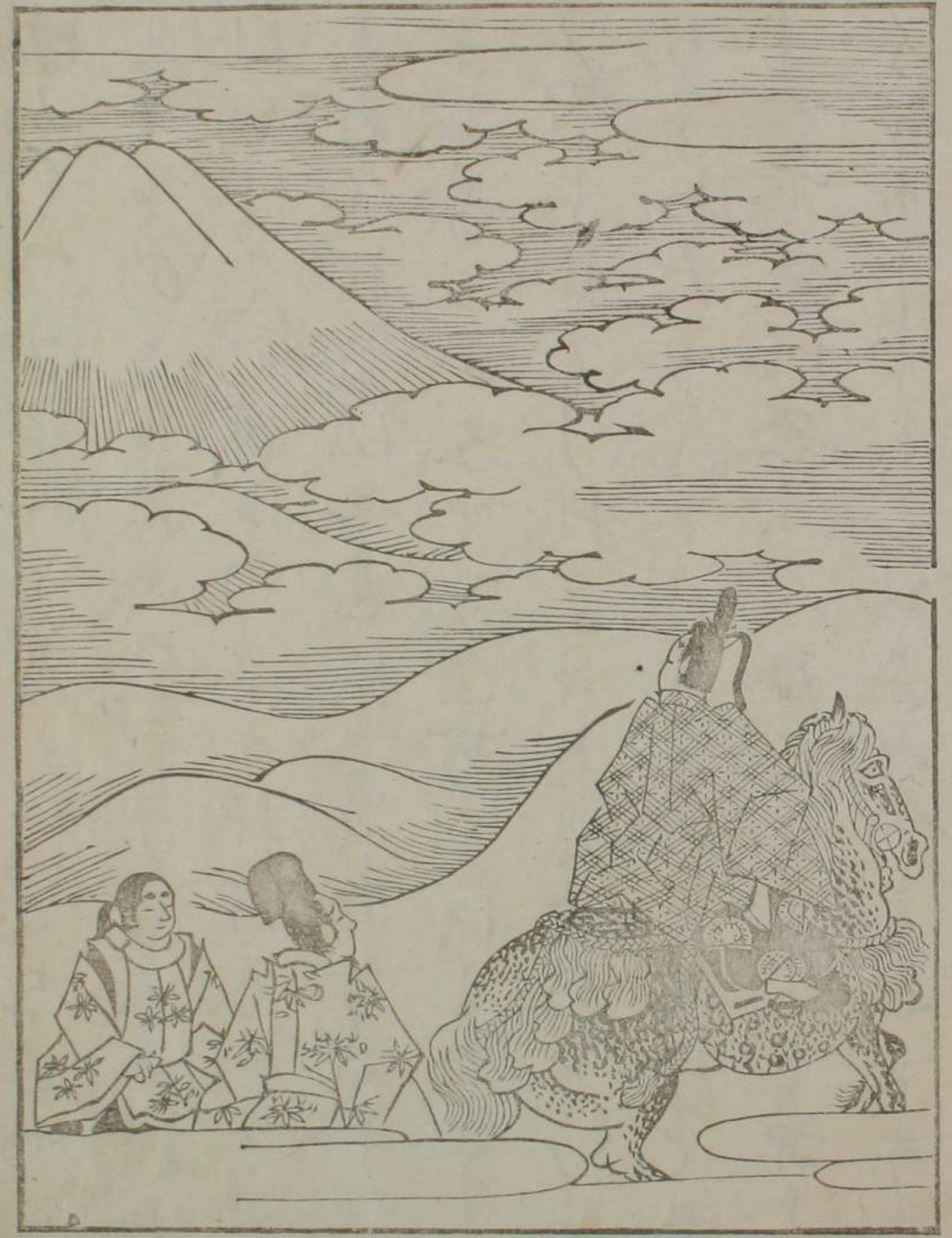




か—の山をみまといき舟乃つこもわふ  
雲いや—ううふまり

とたきぬ山にる全の祿つとそか  
かのこまご羅可雲流あるらん

うお山いこよたとんほひえおや海城を  
たちらりわくそねあけも羅んやど—やなわ  
あ—かまわの屋うになんありら歌







みりーのくた北む乃かわもひたつに  
君のわさううううとなくとふは

世こごねか人ー

我が心にとると思ふたがりこりー  
たのむ乃ふりをつつかわす連ん  
とた藤一人藤くたこても力をかく藤事  
なんや海さわも  
むーおとこ海いまくゆぶら藤事  
うらとものにう地よわつひおこせは

おする眼よかとはおもひになわぬとも  
ううり、舟のめうわあま

昔おやこありうわ人乃すす欠まぬは  
甘きー野へのえゆくやとよぬす人なら  
は神たくののるんにうめ羅神不可  
女然るくをむうお中一ををきたにけ  
よりわうらう人この野のぬは日とあ  
なわとく火はれんと候をうんふわひて  
甘し野をういあやまうわうとまの



はまもこもせりあまのこも神  
とくえんあまきこてあまはとめてとあま  
のえりけり

若草さき〜ふ流む〜京の女のもとに  
まきゆも入んは〜ふ〜い〜る志と  
かまきうは〜ま〜あ〜と〜よて  
を〜勢のちをと〜なわよ〜六京  
ふむをんふ

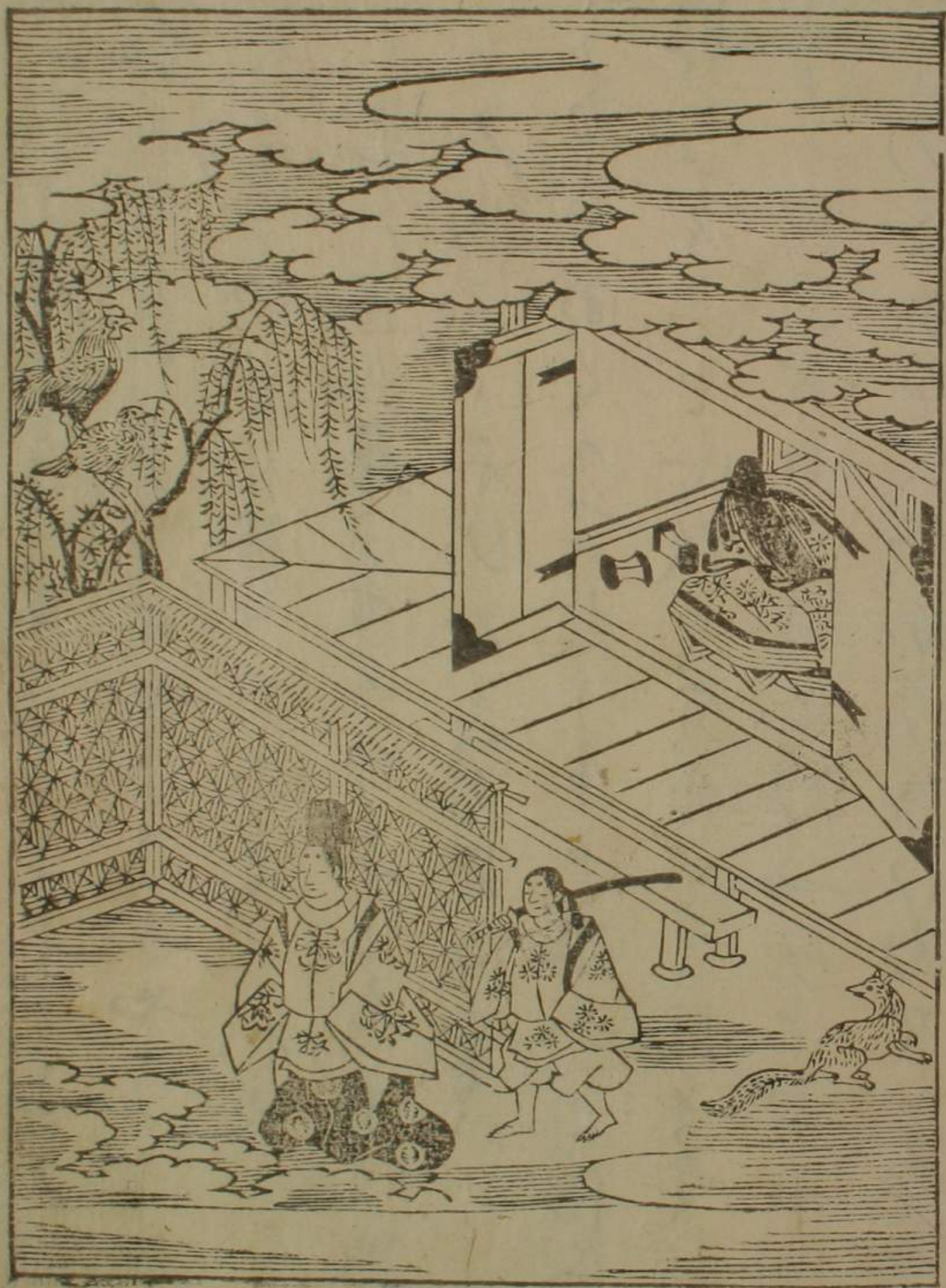
むせおあ〜さ〜たのびよを  
と〜ぬも〜と〜ぬも〜  
此阿るを〜なん〜た〜地志〜  
と〜り〜と〜日〜う〜む〜あ〜

かぶおわよ人ハ〜ぬん

甘〜男みらのと〜す〜り  
いたちにくわう〜明女京の人ハめつ  
か〜やおわ〜せ〜ち〜  
なんぢり〜た〜のをんふ

申〜くに〜ふあ〜  
なふ〜り〜る〜のをり〜

う〜さ〜うひ〜ま〜わ〜る〜  
〜と〜お〜ひ〜ん〜い〜き〜ね〜ち〜



かゝりてしるは女

ねむりたまつふえめあそくいふけの

まゐりたまはせふをやりけり

といふはよむとて京へなげまうりて

くわりのあそび乃松原人あそび

言ひおほとにいきといふは

あそびありともよろこひて思ひ

とていひをわたり



昔みららるくはてふてうことなまき人のめ  
かよひに歌有りあやうさやうまを  
何れか女ともあつてみえられを

志乃よ山思ひてうりまらもり那  
人のころのおとも思ふる

女もやあはくうたーと思へと市原さ  
り那きえひと心依るをうはとをい  
すー記乃ありつ祢とりひとあわたり  
みよのこかたははかうまうわてとた有り

あひは祢とのちいせかゝり時うつあり  
れれをよけつひの人乃とも何れ人か  
是心うたへーくあけはなふこと我こ  
の心そことり人もにもまはさく有ても  
たをすーよかりー時のいあがよよの  
つひのこやもさうす中ーころあひた祢  
を流めあはくとこいんたをてつぬ有り  
あまよあわこあひのきたらてなわは流  
可こりなをわとこはとりーむはまー

まじりこころふりル神今いとゆく哉いや  
あふこころ思ふ違ひまはし—は神のこころわ  
きもふかわらむ。たもひとひて神ん九の病  
りあひあふしひん教ともたならる事とに  
かうく心まをとも悔り方をたかりこと  
もつきこかたうことともえおをたつハすこ  
とこかきをおくた

了哉わたりわひみ志をもをりうふまは  
はたこころひはくしはいへ有りけむ

ぬのともちんこまをえんくく心とおふと  
さふりうのものれまはをうわてしめる  
年とももと哉とくしはつてよん教を  
つくたひまきをたのみあぬ羅ん  
かくつひやわはしん

は神をたはあまた衣むる—こころ  
あのみく—とたをまうわは神  
しうこひ—たつてふ  
秋やうつむやまあとおもふま

あらはなしたのあらふらふあわら敷  
中一い路をとけささわあふら人慮ささ  
乃由あわ不見ふりきたわら神人阿  
あふあわと君にこうささしきく花  
と一よまきさ人あまららり

ぬ

ふよこすばあを雪とさあわふ  
まえはあわともあ服と見えや  
あふあわらあふら女ありらり男らあふら

あふら女うたよむ日とあわら神人こ  
見んよあわとの花乃うけらあは  
あふあわらあふら

あふらあふらにあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら

あふらあふらあふらあふらあふら

あふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら



むー男もやほ、アハ教女のかさふい  
 うもなわん教人彼アハ志里たわん教わと  
 もなくのまにたわおあー一ああれハ女流  
 めクア一冬見ゆる物ーたとこハ何るゆは  
 おともおひーうけをんふ

阿まぶものまうも人乃なわゆく  
 せぬ、アハめも冬みおるもおー

阿まぶものまうも人乃なわゆく  
 せぬ、アハめも冬みおるもおー





有男女いや〜こぶおひのり〜と  
 心なかりけりわさるは伊のなふこやか何り  
 九んつき〜おふあことりつけてよのたの  
 をう〜と忍て〜はたなやあてかあ  
 うつたせよんそもれよまつけた  
 ソ〜いあ〜い〜志とソひやと  
 春のあわは海を人〜〜は  
 と〜を〜い〜い〜い〜の女あ  
 こふた〜た〜い〜い〜を〜い〜

たぢしぬを服たりこらわすかゝるんと  
つやうつうなぶていほくたすもと先遊  
かんとかとよつととみかう鬼ぐらき  
とつつこをりちちと女おほえさわく神六  
かつちりりて

なまふひおよせなわたりと一自然  
あふりちちわておさやと海山し  
定しひ了なうめをち

人ハ伊勢おひひるすらんたまつ

おもひけり乃こいせみえは

乃女おやいせじぶあわてねむーちひて  
よあわんむつひまこせたう

今いとそおほくこくきのも祿をふ  
人懐心有り梅さびもつ那

あ

おのれをきうよとよまきと物なうハ  
おのひなもとけちあち一ふ梅

又くありーよわ辰よつひかりー男

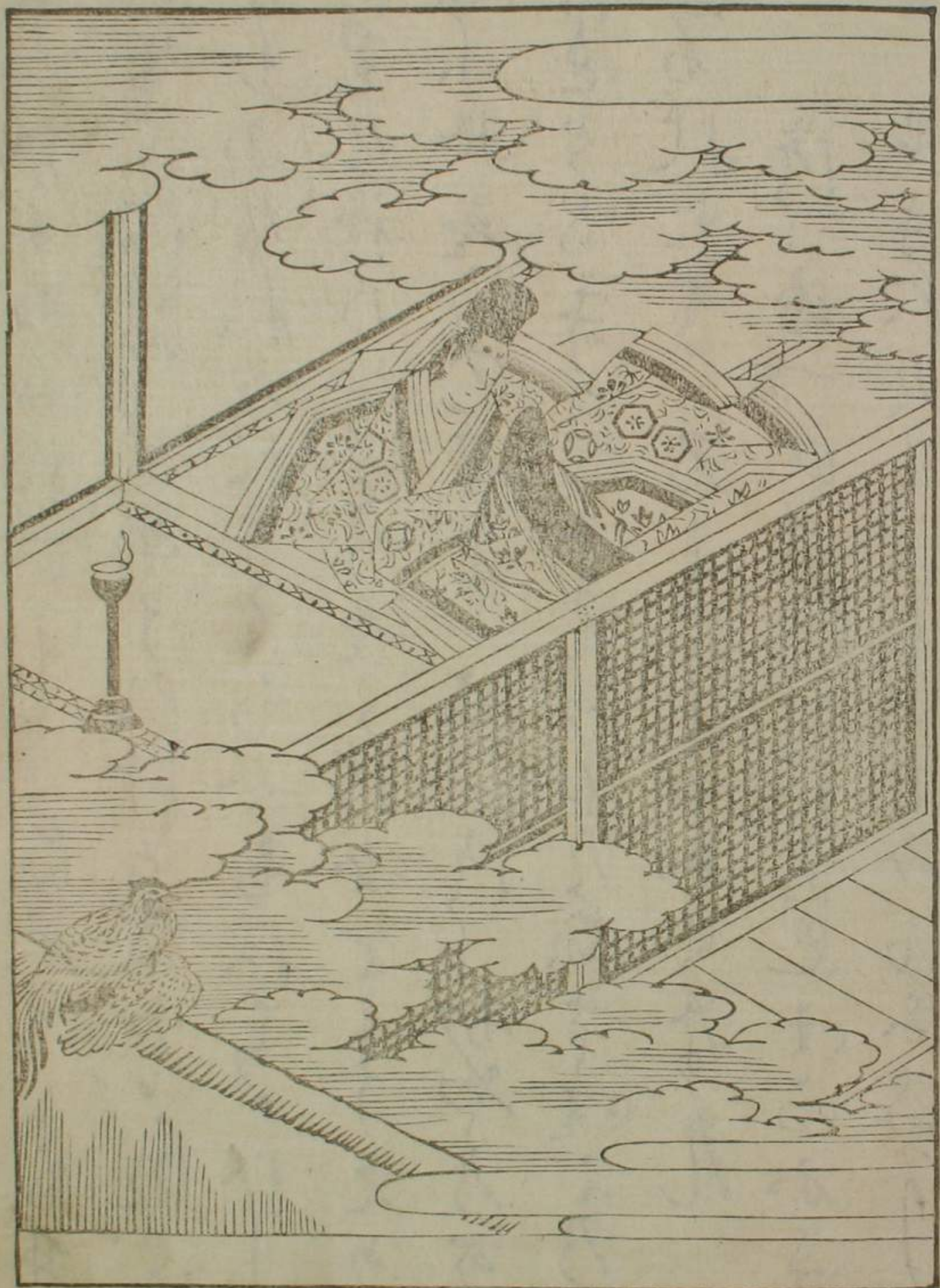
わはく藤んと思ふ心のうたかひ可  
あわ—らむげに指うかあ—た

み—

ふ、空有りならぬる雲北阿ともなく  
君のまの眼ともあわよる候ふ那  
とらひひくれど縁遠か毒こす—あわり  
くも六うとくあわにらり  
首んか眼ふたえ有り候ふ、心をや  
ひきさしりル世女のもよも

うたふ—人をはえ志もあはれ川祿ハ  
く決う—みけ、程々あ—ま  
心はつりられたまは—いよと—ひきたこ  
あひ思ふ—いひをつを、は—まは  
水のた、きそた—と—思ふ  
とらひひ筆さやうお観つ—あわり  
志へり、き観遠こや—もな—ひ  
秋の観乃ら—鏡ひとよ—あはれ—そ  
やちり—ね—あ—と—まのあ—ん





み

ゆよみよのらるる一葉に似せりや  
いとえらうわるともむるなふらじ

いよーらわもあまをーてなん

かよひもあま

昔のたのわの羅ひーく旅人のいとも井  
乃もどにソソ〜あうひけり哉おと服入り  
なわふらねをた〜も女もはちりり了  
阿里く神人むと〜冬に姑女をさうえめ也  
思ふ女冬この男をも心ひけ〜おや乃あう  
はとともまうてた母あわら旅さるこ乃と  
なわ北おさ〜乃とよわわくなん  
は〜ぬづの井つ〜にけしまるおけ  
ときたら〜ないもみは旅はり

女

く〜へ〜あわまげ〜もめ〜にあぬ  
まゑな〜と〜と〜あ〜あ  
た〜ひ〜つ井〜あいのこやと  
あひ〜り〜あ



せう中〜〜海あるやとに女おやなぐた  
 よわふぶな家ま〜よもろともにりふひ  
 ぬぐえけ〜んんハと〜かうちの〜  
 かやすのこほわ有りい〜りふ可〜  
 にりりせわれと〜遠も〜結女〜と思  
 へぬ〜〜おもなぶ〜〜やり〜神ハ  
 男〜と心あわてかぶよや〜ひとた〜  
 う〜か〜と〜いのか〜  
 め〜かうち〜いぬ〜か〜み〜







甘う男かゝるおなりのにほるるを男きづ  
 通しよとそわのまほーんをきよふなる  
 まゝふことおぼしそわぬ神へ持りひたわけ  
 候にやと祓ぐ、病ふひひん敷人よこよひ  
 おじんやちきりりり候有りの男きた  
 りたわこ乃とあけたまんとてたふきと  
 あけぞうがたなひもてうーうわん敷  
 何しよの年乃ミとせをまらまひて  
 うこいよひこうりおまらうひし



りわうこなわらういへよおよびのちう  
くまのけき

いひおもひそめさめゆる人候とて  
わらわのいひ海をまきこめてぬめ候  
いふおそうこりりつるふなわらり  
昔たやういひわらうありともいひさ  
けんをらんふのさぬおなわらぬも  
いひやうらぬ

秋原野よさうと見れ志あきの袖らわも

あつそぬるまうひらまそわらぬ

いひよのこなな女也

いひめなま我がをうらぬ志し  
いひあそいひまのやうたゆく女

むら男五条あつわらわらぬ女をさす  
なむらぬこやうわらわらぬ人乃  
おもわしす袖ふらぬとのさう  
もはういひ乃らわらぬ

昔たやう女のもうらぬを  
いひたて又もい







昔の海ごのりなわらぬ女よとつよはる神の  
 ふとそかくあふこころにたわはるん  
 水もさしとせぬはしらの故  
 むし春宮の女侍のゆかしのりふ乃重よ  
 めしおしけ履とさわりぬ  
 花よあふぬあけききつもせ志あやも  
 夢よ乃こよひにるよまはる

昔に松をくちを所かなわける女乃もど有り  
何よりハたま乃まじわねもやそで  
了るまじく所のなると見え舞う舞  
せう一宮乃うちにてお家ごころちの法原祿  
乃まぐれおあつらふ子なりのおこにか  
おのひらんよーやんきはよふらんさ  
るんじとつふおねと

はくもおまき人をうけへばおのれくそ  
を乃らうんすうおふとつふおた

とつふをねたむぬもあやそあり  
せう一おのひらん女にとつらつらあり  
いふ一この志つみをたままきうらみ志  
む一城のまふりふいより一もつ那  
世いつちルれとなふやも忍びのやまら  
せう一男つ乃くまむづのこあわにかよ  
ひくう女よのさひい業をぬみかうどとむ  
もつあつ一お方をむいおと

せう一よわらぬくろ志ほのり屋じよ

まきこりこり海をむもひまのり

あ

こもり江より思ふころをりそかた

あさひとほろきりり海へ入り

あなる人遠くへてはりや何と

あつたところ遠くあかむ人遠く

といえよいん林は世ねよきはり

心をとけりあけく海へ那

おもひくを伊へる海へ

首心もあつたえは人のもつた

あ乃をいあえはよもてむいん

たえ了のくらもあらんとう思ふ

あつたはあむあむあむあむあむ

あつたはあむあむあむあむあむ

あせは見えぬまをりんたまへ

あえせと人なりわのたもはな

あつたはあむあむあむあむあむ

あつたはあむあむあむあむあむ

我なしてきこひもとくふあき、はの  
ゆふけのぬるまゝ人あわとも

五

ぬこわきてせはひもたりにわ  
あひんかまはいとらうとふ

ずり紀比ありつりかみまははり  
あきをうくさあかありやりも  
きえよらわ思ひあつひぬむのゆ  
人名に神をんこひとらふ

五

あうと祿いむの人こらうなふをわも  
こひとらふとらうとらふ

首かみ乃見らやうは見えたり  
まうらわらふかとのほこりい  
やすまうがわりわうのみこらう  
お厚んはあ乃わら言のとなわあ  
けんわらとほえあんとく女車  
けひあわてしうらわらひさう





日此いぬのやたりわになせううまー  
いまいつたもるるせうーのわの人いせら  
すけり物おもひをなん志は教いま乃た  
きたるさ月しきふんを

せうー女うかろふうわるるわらわら  
い願たたとこみまろーきひとわは  
あてふり男もごりわいやーき男もた  
あへり此はあも里にうこのあぬをあ  
隠ひうつうらわあわらさーいー

い神とせらるいやーきねもなうさわ  
けまらうんのまぬ乃たまらわやわてけ  
里とあかしも願らうてたれよあふらわ  
い神をうたあやまあおとていやん  
らうーあわらねとまよ隠るうらう  
さう乃うんのたぬをえいぞやうとて  
むうたのいあいま時ハあもい教よ  
野なふらき本うわのれさうりら教  
甘やー野の心たけあ





昔おやまゝのつゆはるのこころはなほく女  
 けの伊へ里々わきまをたたくはたあき  
 里々わきまをくくはなほとをまひやう  
 一り欠たとさわとそりのていたえありま  
 志うわけあり程いたく何さわく敷ゆ  
 なあむれたふつか三ぼりうりたの家こも  
 ありてを伊のぞくはなほ

けこころあやむるはまのりし志を  
 たかあまのひちとつゆはなほ人

もあうたおはしーさ有しよあつたあわらり  
むーくやの見ことちーすみこはりー  
あーくもろおみこ女奴おぼ志めーく  
あーくこくめくこ流かう路ひくお  
をんかあめきくありあおお城もさ乃こ  
たもひくおをふしとあーつげろあえん  
かとこあひのかこをかあ

あふをうとまきぬたものこ  
あふをうとまきぬたものこ

あいつちの女くーお城とわ

あ乃こたらーくのこあはけさうなく  
いあわああぬのわうとまあめ

時をさ有よなびわらあはとーぬ

あわあおあはてのたあはふをを乃む  
わのしむせあこあーあえすハ

むーあがたへり人ろーあまたえなむ  
けせんろくあびてうとまき人ろーあーあわ  
あはあしあどろーあああああああ女

のほろろとかばんとはしあやうなれと  
しほろろとせもれこい小遊ひつけさめ  
しほろろとゆくとたえにとぬたはせに  
わきまもなくなわぬかきり那

この哥に何なるがなるなりたもしほろろと  
心とせうこよまほば羅にあらりひて  
せう一男あわたり人徳せぬめのうけ  
しほろろとせもれこい小遊ひつけさめ  
ありうらしとせとあやうやありん

このをこりなわたりぬとせに  
しほろろとせもれこい小遊ひつけさめ  
つげなとせとあやうやありん  
きたわらとせとあやうやありん  
こもちをわらとせとあやうやありん  
しほろろとせもれこい小遊ひつけさめ  
てあやうやありん  
ほたうらとせとあやうやありん  
せわて





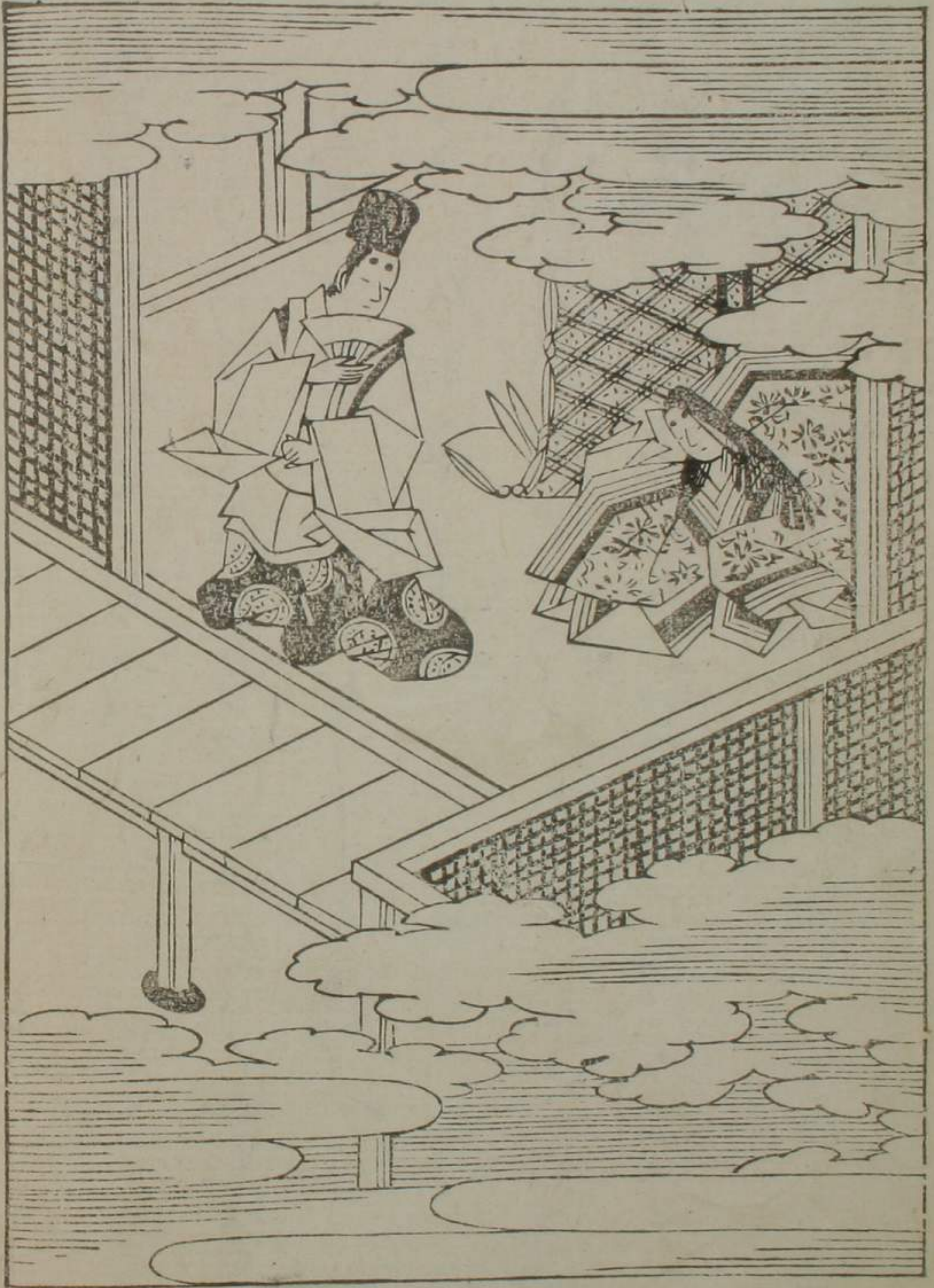
は非一ふらうせハ何れとびふれを  
昔おとゝいふらわむまけりふせけせんとう  
人をまらぐ影ふりこさうりく影ハ  
いまう一いへくる志た物と人まゝむ  
さう城ハいゝはとぬ海わらうり

む一非とゝいもうとのふとあう一  
なわらるるを思をきりて

ううわのこねうらにんあふるあう子成  
人應甘ひんすいを一う思ふ

定まゝこゝらわぬ一

え所子乃眼とらう一まゝこゝらわぬ  
う成なくものをなむひく教り那



甘く男ありけりわうむ故人をう羅る  
 とものこをと成つてとまをせぬやも  
 にもつ想人成がもつものかは  
 やいつりもも六

あり病ハきさるうわてもあわぬ庵  
 ささりこのよをた乃こもつへき

又おとこ

かく風よこごのさくうハちうすとあ  
 あふよ乃こかこ人慮うろを

み女姝一

ゆく山ふく山うくふもはりたはり  
おもろぬ人をおもよなわたり

あはれ

り水とるうさりひとちあはれ  
いほまきまきふもあまきく

あたくしうさりうさりあはれ  
乃ひありまき一うさりあはれ







首おとこしつらり人乃もどもわかきなわ  
ちまきなをこぢうりな成むとす

おやめおわ君いぬまようまをひんぢ

おまの野にそとくううまひーま

とくまーまなんやりくぢ

甘くおとこあひたき女有りあひぢぢ  
かうわ眼としくおとにとわのなきくぢ  
いそかはるのなくらん人ーまひ  
思ふこころいまおぬま有り

昔男はさふりりな女有りいひやりぢ

おまやうぬまぢたと成るまうに

何まはやふあつぢ屋なくぢん

おーおとこたひひけな女のをう

あーうなわてはよ有

思ふすをおわもはうめとよとの葉乃

なわあーおとこたはまあこぢ

甘く男小まおかりひおまをなむひく  
あはま

わの袖いゝき乃いほわよあしねと  
くろま月露のやとわなわけり  
むーおとこ人トまぬものむひり  
は神なき人のもとあり

急ちひぬあまれうもふやとら  
我がう方をもちたつふり那

昔こく神はまをいつはごのこなふむとふ  
うをぬきつふ可しつ急つうわをまわり  
うこはやなわあわらぬきりうりこも

かた女とも此のなわら神の田うん  
とそこの男はありてんそいみ乃すたも  
のこ志王也やとそあはまわつりきん  
はこ乃男にげておとたぬく神ふくれハ女  
あまよらわあはれしく世のふとあま  
ひえけんハ乃をといまもあま  
あまひては家なりあはま電まぬあり  
く神のあま

すくすおひやあまたう雷のう神た

あわももおろし乃すたくなわらわ  
とくなむしううわら敷この女もほ  
ひつじんそひひれを

うらまひえむらぼはつふとあたま  
わさもたづらよゆりまゆを

せうたとこ家をつて思ひくせぬんか  
ひろひまむとむひひりて

はえわひぬいまをかありとふきと  
あまめくはくまやとむとるむ

かくもりのくやる志にりりうわら  
あたまもよらうた眼ときてむきつ

わのうんにあうをとありあま北河  
あねうらぬのひ乃一けく

となんソひていさうそくわら敷

昔むとこあわあわ言はか人いうく  
ふもまめなうあわらあやとの伊人とう志  
あめりおもちんとりあ人ふつま人  
くたこいよらわこのおとこ字佐藤はかひ

にそつたるるすし何なるものか  
 官人シ辱めよそをせあはとまきてか何す  
 に、りりけとせよさうまハのしとい  
 ひも六かりりけとわてい、うたわら  
 小きう那なわらるるををとりわて  
 き月まら花うらふのか依りけ名  
 ずりのひと乃袖添かう  
 やつひれ教ふるをむひよとあまになわ  
 て山ありりわてうありり教



昔おとこはく——まをいつたたわらるるり  
これをいつたこの世とつふすきもれ世はた  
まのうらなふ人乃りひん敵をまきか  
うめりをおた羅ん日や乃りそかは  
つたよふ候てよことのふこらん

女函——

ぬほおつてあこふうあう人死たまを  
なこのぬれあぬき候とつふなわ  
む一年の病をとけさあわらるる女ら——

こもあつたわらんはなまき人のこた  
はまき人のこまなわん教人につくま  
まを思——人慮まへよつてあてもめくハ  
せふと——うりよさわこ乃の候は目とたま  
こまを——ふりひん敵をこせたわらわ  
おとこをい志すやとく

いよ志入乃よほひをいけ羅はく了花  
こらるる——ともなわん教、那  
あつたをいせえは——とむひてつこ

もぢえぬたうをたといふ通もさぬと伊人  
冬海のこほめく有りめもみえは物もいふ  
まのとりよ

こ神やうは我小あふこ城のこおひ  
と一月やましまあり、ほたて

やひひてきぬきまるとせふれとす  
ふけりうわつちいぬらんやもさす  
むり世はくぢぬそんをさけあむ  
男りあひさすーがなと思へたひひ

つてむたうわもふさすりまことなぬ後  
かこをの子三人をひてうわあり  
ぬりのこひまきけなくいふやとぬ  
きあふなわあう子お母おれおとこ  
つてこんとあひはく有りはあはく  
あやうーこと人をいやなきるあいつ  
このを五中およありあてーが眼と思ふ  
心ありかわーあわまるるーはまはひ  
てうちうそむまはくらなとわてあうく

なんぢもよとソひく神のあはれをわけて  
あそぶよわささくのち男みえさくわく神の  
女もよとソひく神のあはれをわけて  
たゞいひのりなりとて

もくと勢にいとせむくぬつともるん  
わさびにありしおもひけりてはゆ  
とてつてたけしきまゝんてまづか  
からり。かうわてい息よ業々うらふせわ  
たゞいひのりなりとてやうなり志乃ひて

とてつてたけしきまゝんてまづか

さびーらよおかーきこひも

おー一人にありて乃こねん

とてつてたけしきまゝんてまづか  
あそぶよわささくのち男みえさくわく神の  
女もよとソひく神のあはれをわけて  
たゞいひのりなりとて  
乃人ハおもぬをもたぬをもりちみ  
せぬ心なんしゆりも





昔おとこみうりにあつた小豆さめせあり  
 夕神六つたくなわらばあや—さふもあ  
 かく風小わりの身をふさはぬまのこ  
 ひまもどめ流るい流へまもれ城

ぬ—

ともとあぬ風もはありともむすこ  
 大、おるさをうひはりとすへま  
 む—おほやけおほ—く流かうたまあ  
 女のとゆるさをさうるありはるおほえや

先可とく。いまもわらぬ。いそこ。おわらわ  
殿上角。きやうひ。なる。あわつ。なわらぬ  
た。この。ほ。い。や。わ。あり。なる。を。この。女  
おひ。ち。わ。た。わ。ら。を。男。女。づ。た。ゆ。ゆ。き。ま。あ  
ら。れ。た。女。乃。女。あ。あ。す。き。ま。せ。う。ひ。を。わ。ら  
ま。た。女。い。と。の。い。え。な。わ。あ。も。ほ。ほ。ひ。た。ん  
か。く。ふ。を。を。と。い。ひ。ん。ま。た

思ふ人志のありことうほけに  
何よりか人をまもあしあま

と。い。ひ。了。あ。う。一。よ。お。わ。た。ま。ん。神。い。ま。い  
の。こ。乃。み。さ。う。志。も。冬。人。應。ん。り。を。も。志。う。て  
お。わ。わ。ぬ。ら。れ。た。こ。乃。女。ま。の。ひ。ま。ひ。て。里。へ  
ゆ。く。ま。ま。は。な。り。の。ま。ま。こ。と。う。か。ひ。了  
つ。た。や。う。ひ。な。れ。を。い。れ。人。ま。ま。て。お。ほ。ひ。け  
ま。つ。と。う。と。もの。も。ほ。く。ま。の。い。ぬ。お。と。ほ。え  
と。わ。た。た。く。す。い。ふ。け。い。ま。て。乃。ほ。わ。ぬ。お。と  
あ。は。ら。ぬ。一。あ。り。ま。い。ぬ。は。ま。も。い。し  
ほ。く。ふ。あ。わ。ぬ。へ。ま。ま。は。あ。り。ほ。ほ。ひ。ぬ

あつとくはたかきつりのりともわりの  
かゝる心むね強へんやとけ神も申す  
れとつたまさあなり乃とおおはたか  
お里なくおつう乃とたわしく神の  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
つとあつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ

あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ  
あつとくむね強よひえこつせとつ



おえくすにこそぞ—— 木里行ふはれを  
くすす—— ちも里えなく

あはのつりもにけせ出乃ちまかすと  
祢なとうなるめ世依いううん——

やなぶをまふこおれとこち人乃くたよち  
敷こもりまはるこえをいよとち—— 海ぶぬ  
きんこ色いおり—— うえ男あはれすう  
うひあうかこまいこ乃女をくすにこもち  
ふ—— うれすくあな家といまるといひ

んうふりもあはるなむらぬ

ゆりともやあふんこちかあ—— くれ

あはもあぬを志す—— くれ

や思ひまわ男に女志あは祢あかく志あり

まはる人乃く—— ちあてううふ

いんはるふおあてきまぬあ物ゆいふ

んまこほ—— せにきまもまはる

水のお遠内とたふあ—— 心は宮いむあも  
うめとのたきまなわと糸のまきまきとあ

昔たゞこの日の夜に〜一旅可い程くるふ  
あふりたや〜ともならひた井そ〜なふり  
えりわ〜り〜ま〜らわなまさをみとを  
ともの何の故ん〜

なふはつをげき〜神のう〜と  
〜世やこの〜世う〜わたる小祿  
こ世をお〜りて人〜り〜に  
昔む〜い〜う〜に〜とら〜ひ  
つ〜ね〜見の〜入〜ま〜ら〜り

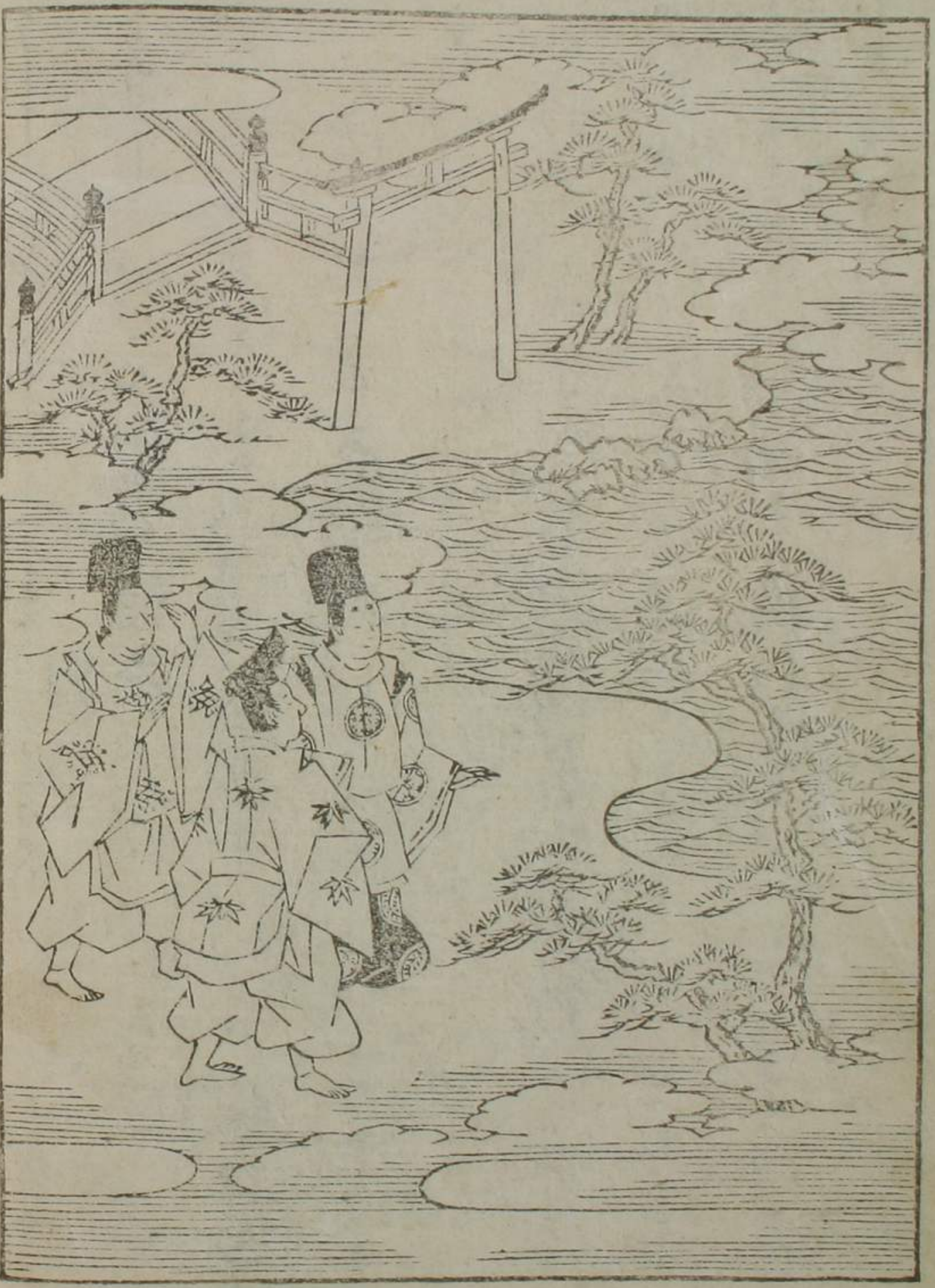
い〜らわがうちのと〜い〜遠山  
見も〜もわ〜れ見を井〜もやま  
すあ〜〜も〜目〜もの  
雲いや〜う本の寸志〜あ〜  
〜ふ〜のゆ〜日〜乃なる〜  
〜ら〜

ま〜も〜雲落〜ま〜ひ〜く〜  
花此〜や〜一〜と〜ら〜り



むしーたさこつつこ北くろーへつたふわ  
 ぼよーのこわらぼき乃由くはえさー  
 乃え海をゆくよつたおもー海々神ハ由わ  
 非一法と遊と女商人はえろーのえまよさ  
 次とつふ

かわあまきる着のはなをく秋ハあまさと  
 花乃うこ魚舟すまよーのえまよ  
 空よあゆられたこれしをくよまのなわ  
 不ーけち



昔むねとくまのうのむねこしむのくたし  
 五木のほしひよむまのるすしむしせ  
 徳哥言なむあふとのむあつひ乃つひ  
 むわはふけ人よくむむしむしひやきり  
 くらたあやの事なむくらむむしむし  
 こけすしむしむらむらむらたむらりふ  
 いーたささやちゆふさわいさむは  
 うこよこさせさむあくてねんこけふし  
 徳あむむしむしむむむむむむむむ



づんとつふ女もまたありーとも思へ程は  
きまやひとめ志けらるるあはれはけし  
さゆと何る人あれいと然とも思とさる女  
乃祿やもちろとあわれ神ハ女人類ハ快  
つゝね日とつづわ有しおとこ乃とつづ  
きつわあも男もたはるるさるるはとの  
つたを児つづーしそふさる小舟のたは  
るふあにち心を兒あははははははははは  
人たを里男やとう神ーとてわのぬる家

つゝめえつりてはひとほのわのーと  
まやあはれにほし照るーともかゝ程いぬ小  
つわよつわたとこつとあーくさねす  
なわにまわはとさるーつづーつれとわの  
人をやるゝあみーあねいよとさるも  
照るまをまはあはれをた神てさるー  
何るー女のともさるわとさるゝ照る

君屋ーあまやあまさんおあす  
ゆえ、字は、おねてさるる。

たのしいはあはれいしうまきやうもあはれ

あまらくすむのやうありまといにき

あうけくともいひきたる

やうあやわりあわすいそく野まあり

けとふいうにそこよひたふ人いはあ

了とくあじんと思ふにくたのくえんは

まは言乃あえんけい教ふり法はあひあり

兜まうて教目とくさけのえういふ事いも

いしあひごともえきあけをわたりあはれ國

通らならんやいそいあはれいも人志まひ

らの法をたふせとえあひあはれあはれ

あはれあはれといふあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれのあはれあはれあはれ

いしあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ



南のあふさうおせきふらうたが舞  
 とくくあくははたりのる乃くまへくく月  
 乃わ奇宮を水添に弘法と兼み流矢皇の内  
 女、神大女のみく、乃伊もうと





昔おとこしせ乃くそりなわらぬおれ女みえあ  
 つととなりのくらへいとととつとつと  
 うらみくらおれ女

おほよとのおれつとつとつとつとつとつと  
 うらみくらおれ女

昔うこも人ありとまゐりやせううこ城もふ  
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 めも人ありとまゐりやせううこ城もふ  
 かはらみこときさるそりうあわらぬ

せうー男女を伴ううううんそ

若祿少ん、さあり山りーあーあとも

あーぬ日おぼとこひ木、歌、那

あーおぼとこいおぼとこりーこのえいさ

あんとしひいれおぼとこ

おぼよとの演おぼよておんりかうに

こころをたぬかこ、歌、ねやも

あーひてまきてつれあふりいれおぼとこ

袖ぬまていおまのうわおぼおたの海の

いおぼをいひよくやまむとやい

如

若まよりおあうみ當りーおぼとこ

志ほひーおぼとこあひもありおぼ

おぼとこ

おぼとこおぼとこおぼとこおぼとこ

おぼとこおぼとこおぼとこおぼとこ

おぼとこおぼとこおぼとこおぼとこ

おぼとこおぼとこおぼとこおぼとこ

む前とや一々あとき氏神有りまうて  
あうふに於<sup>陽</sup>休<sup>陽</sup>休<sup>陽</sup>をきにきやひん<sup>陽</sup>敷<sup>陽</sup>かま  
あ人へのの<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>たま<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>つ<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>そ<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>車<sup>陽</sup>  
もわたまらわてまう<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>た<sup>陽</sup>え<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>る<sup>陽</sup>敷<sup>陽</sup>  
むほり<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>や<sup>陽</sup>を<sup>陽</sup>志<sup>陽</sup>保<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>山<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>ハ  
神<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>ひ<sup>陽</sup>い<sup>陽</sup>は<sup>陽</sup>る<sup>陽</sup>欠<sup>陽</sup>  
と<sup>陽</sup>々<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>と<sup>陽</sup>や<sup>陽</sup>た<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>ひ<sup>陽</sup>な<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>ひ<sup>陽</sup>か<sup>陽</sup>  
だ<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>ひ<sup>陽</sup>ん<sup>陽</sup>志<sup>陽</sup>す<sup>陽</sup>か<sup>陽</sup>——  
や<sup>陽</sup>——<sup>陽</sup>田<sup>陽</sup>む<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>み<sup>陽</sup>——と<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>や<sup>陽</sup>——<sup>陽</sup>は<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>お

り——ま——<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>お<sup>陽</sup>時<sup>陽</sup>保<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>た<sup>陽</sup>か<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>  
いとや<sup>陽</sup>——<sup>陽</sup>す<sup>陽</sup>ん<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>ら<sup>陽</sup>を<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>れ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>勢<sup>陽</sup>新<sup>陽</sup>て  
安<sup>陽</sup>祥<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>る<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>見<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>ぞ<sup>陽</sup>——<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>人<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>け<sup>陽</sup>  
物<sup>陽</sup>た<sup>陽</sup>え<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>つ<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>ら<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>そ<sup>陽</sup>ら<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>け<sup>陽</sup>め<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>る<sup>陽</sup>物<sup>陽</sup>  
ち<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>け<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>び<sup>陽</sup>く<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>け<sup>陽</sup>と<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>  
坂<sup>陽</sup>本<sup>陽</sup>乃<sup>陽</sup>枝<sup>陽</sup>有<sup>陽</sup>——<sup>陽</sup>ア<sup>陽</sup>け<sup>陽</sup>て<sup>陽</sup>た<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>乃<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>ん<sup>陽</sup>に<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>る<sup>陽</sup>  
う<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>ハ<sup>陽</sup>山<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>ふ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>へ<sup>陽</sup>有<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>  
う<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>ハ<sup>陽</sup>山<sup>陽</sup>も<sup>陽</sup>さ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>ふ<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>へ<sup>陽</sup>有<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>こ<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>  
右<sup>陽</sup>大<sup>陽</sup>將<sup>陽</sup>ト<sup>陽</sup>い<sup>陽</sup>ま<sup>陽</sup>う<sup>陽</sup>か<sup>陽</sup>わ<sup>陽</sup>ら<sup>陽</sup>敷<sup>陽</sup>あ<sup>陽</sup>ら<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>の<sup>陽</sup>つ<sup>陽</sup>り<sup>陽</sup>

ゆふとや一すい海うかわてかうの城り家  
かよにういよむ人くをえーお所を  
くよ乃とあきを懸りてお乃心ええおり  
うててま所羅塔塔乃母海落くえなわ  
くるおよふりいたうひふーくえくお  
山の三所う所置了け小所あるうい  
お所乃わのれをとぬとぬる所  
せよのこつわけんをいまみまはくもあ  
あわゆるをたえんハニ神やまぞわらん

あふまかわけり

むーたよまこと申一寸おおりーま  
ーくわう勢強はなまぬかのみあき  
安祥さになーくわ右大将あらりの  
つひおまことりい人いまうくわうおみ  
まさにまうて新ひ了か人さるー山ーふ乃  
ぞ貴トーのみこおりーますうのやま志あ  
乃言ふおた中ーおはー羅塔おとー  
おー海くはくれえ所にまうてけうえ



年二海より入りそつかうまはせとちか  
くハシ海もはかう海行くもこよひハこ  
りしきあつじんとやーたまのみこも  
こひ行ふてゝものたまー乃まうけせ  
せたまあ市原ノーか浪大おし〜た  
かひ強おやう言つ〜のり〜り〜  
方をやいぢくま三糸浪おほくゆぶせー  
時紀遠くたの千里乃ままノーあわら敷  
此おもし海まり〜まうまりさおほ見

おぶのいらたをまうま置ーかば何人  
乃まきりー乃まくのえが有いんこわ  
ー我志ぶこ内見たまあま〜なわら  
い志をさすまうんとお強〜すい志ん  
と祇里ー〜とわりつ〜ハい〜  
もな〜もてま〜いーまー  
らわはん〜ハまを神里に祇波〜よた  
まつ〜ハす〜ろか〜と人〜  
にう〜よ海さ〜まお右のむまれ〜んあわ



此の人乃我なんあをきこけまきまをんを  
 まよふのかいりこのうて我つけてた  
 まらわらぬ

あつちやも若小うあふ候つてみえぬ  
 こころをこせんりーのふり神人  
 此なまふりらぬ

むしーうぢらののなるにんこうまきたまつち  
りりけうふやう人くうううんんんんわわわ  
おほぢのうなわぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
わう門ふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
あけふゆききりかき神さるへんり  
こ神ハあゝあひのみことあ此人神一将兵  
ことあせりひくるあふん神油うゆふひ  
乃むす免のりうなり

むしーむやろへんあ伊人ーからの花  
うんうまひとあひんをひの法こもわ  
りうぢ日あめうぼうり人儀もこ  
あわてうまはすうもあふ

ぬれけうう志ぬお里つあ年のゆに  
えぢハりくうもあししとなもへは

廿一乃木むい まうちまきこい海うりわ  
 くらかも河みほとも小共茶あうりよ家を  
 いやにもくはくはうりてはえ給ひくら稼  
 な月のつらも里ノた菊乃花うはろひぞる  
 里なふにぬきのらくまよえぬる木里えこ  
 たら木りーまきあえよひやあきけ乃こ志  
 あそひてあけもやゆくわとふこの中乃  
 の木ー海あはほむあうるよむうこよあ  
 里らるあふ井むまふだりーまはきこよは





ひかりきく人にいぬよませえ〜〜ゆる  
 志かうほよつあまにけんあせいな  
 つわにうぬい〜〜りよ羅な舞  
 定なむよん乃教うちのとら〜〜ひきうわけ  
 係にあや〜とね〜〜ろた〜〜ろ〜とね  
 おまらわわが兄あや共十よ國ののな〜志  
 ほらまあ〜〜に〜たうあふあわらわさ  
 まはなせぬのおきふ〜〜ふ〜〜をめ〜〜  
 志ほかほよ〜〜にけんや〜〜あらら

甘うーに新たか乃みことやーすみこ村ハ  
志海ーくを山ぞたのあふたすーに飛せ  
とつ小少の福小宮何りり年こととのさ  
くくの花さあわふへう村宮へおせおり  
まーく敷うの時見ぎのむまれく見あわ  
くる人をつ孫りーゆ々おほーまーくわ  
とたーくく久志くあわふく村へく村人儀  
あわの飛りーくわりハ村心く海もも  
きくさげを乃この見海くや海とくーり

あーきりり今かわはくうたれく方記市  
乃ソくう法ぬんの標ことり村ー海志  
う村木乃もくにおわみくえたをお里て、  
さーりーさーてあんあーもこれ哥くん  
く望うまのるんあわく村人儀もあつ  
せ中ーにたー富さくく此たの里せハ  
い敷乃はハのとけくまー  
となんあこくわく敷又ひとれうた  
ちまはくく心さくくハめく大んこ





かつりて言可いし勢もほひぬよやく  
 まささけ乃ことのうわしんあまの  
 みこゑしそわか新ひたるとす十一しんじゅういち月つき  
 月もかゝ神たんとほさハぬのひまれ、  
 乃よあふ

あ、かくに南さあも月のかくあか  
 山のえにんそいすもあふふん  
 み、ふ、ハ里たぐまうわてきれありつ  
 を志あつてみもたつらになわあん



おまのまなぐい月もいりー  
むーしぬせよあひはしし神たりの  
みこれいのまわーりおりーまたも  
にうほひ。見たりおまふつかうまらま  
日之海へそまふり。つわけうらわはを  
らわーとくいおま。おまにおほみ  
ままひはくたまじんそまは。えきわ  
らわりのむまのえい。となうわ  
はらうとくまひまひまふよおせ

あま乃粒とたすりのままなぐ  
やんくらとたいやひ乃はこもわなわ  
まわえこおほとのまもてあま。行てげ  
まぬくーは。まうてつかうまらまら  
まもひのほり。おと志おれー  
たさうまらおまお。えまらまらん  
まをのにまうてまらひえのまら  
まおれい。まらた。志まら。見むら  
にほうて。おま。まらまらまらまら



とつやもあふくしてわたりまゝに神の  
 庭にひきくさむひまのついで  
 乃ことなと木のひつゞきさけりさを  
 もせううひてうなと思へと木ほや  
 けごとくも何われもえさふりそゆふ  
 と神ありかゝうとや

木のこゝろはまゝに思ふおひひあや  
 雲さかえとてまゝにをえんとは  
 此て木神の思ふまゝ

昔はとてありけりか  
たむ言ふわが敷く  
はにひえ給けり  
けり  
まうてけしとけ  
けり  
にとこのことと  
みまはうさぢり

たいぬまもんさう  
ぬ別の阿わと  
は

はよく  
ま君の那

かの子ほしうら  
ま

せはよさう  
ぬわのなくも  
那

子よも  
の候日と乃  
は

むしおと  
けり

まらまら  
けり

くをむ月  
は

けの言は  
か

えまうて  
けり

ほうくく候ふなすありの教せりしはかう  
らわー人づくふ候せんト一なふおほさ  
まゆわあはまりてむ有なまをいしとたら  
とくおほ忍きたまひまわりゆふこあひお  
ことあわこはひもひ有や海あこれ日や  
あひて雲フーしあわこめしあうわとり  
を懸にううあわらる

心へとあやを志ねねいあんの飛をぬ  
おまのつもううわのこころかな

とよめかりし神ハみこいといふうあいさあ  
里行うて清うぬまきたたまつちけり  
せういといまのまたとこわのさ女をさひ  
いづりうわをのくおやまの神ハは  
んそひさしそやこにかり年とあそ  
ぬのともになをいさうにたきんともあ  
けんおさういさあかんそやと里こうり

今まてよわのまぬ人いさよもあし  
まのかさまし一年乃へぬま

とくやみすりたりおとこも女も何ひりふ  
神ぬ言つゝへに有様一ツとよ久敷  
むしおとこはの國むりる乃こほわあ  
をみさも六一一家より一きそいきをいん  
らわせり一のうこり

きのか乃ふたの志かをまきつては海なこ  
つけのをど一もせうすたよくらわ  
やうえんくらうこの市くなくえきおれこ  
をたのんや一や遠ふたとはつひらるこの

おとこはなをばか一  
ふらわし一 忍の下キル 乃はけとらおけ下里  
たにむわるは男のふはらんもあよ乃あらん  
なわらわうおつえ乃まくの海濱ほとわ小  
あうひはをあそ 一はさる 乃山乃かみに何わ  
とりぬのひき乃たまえし一此ほらんと  
いひて乃わわてんやうのたおもものよわ  
ことなわなうさ二十文ひろさ五文りり  
あうりのおもて有し志うきぬにいへん



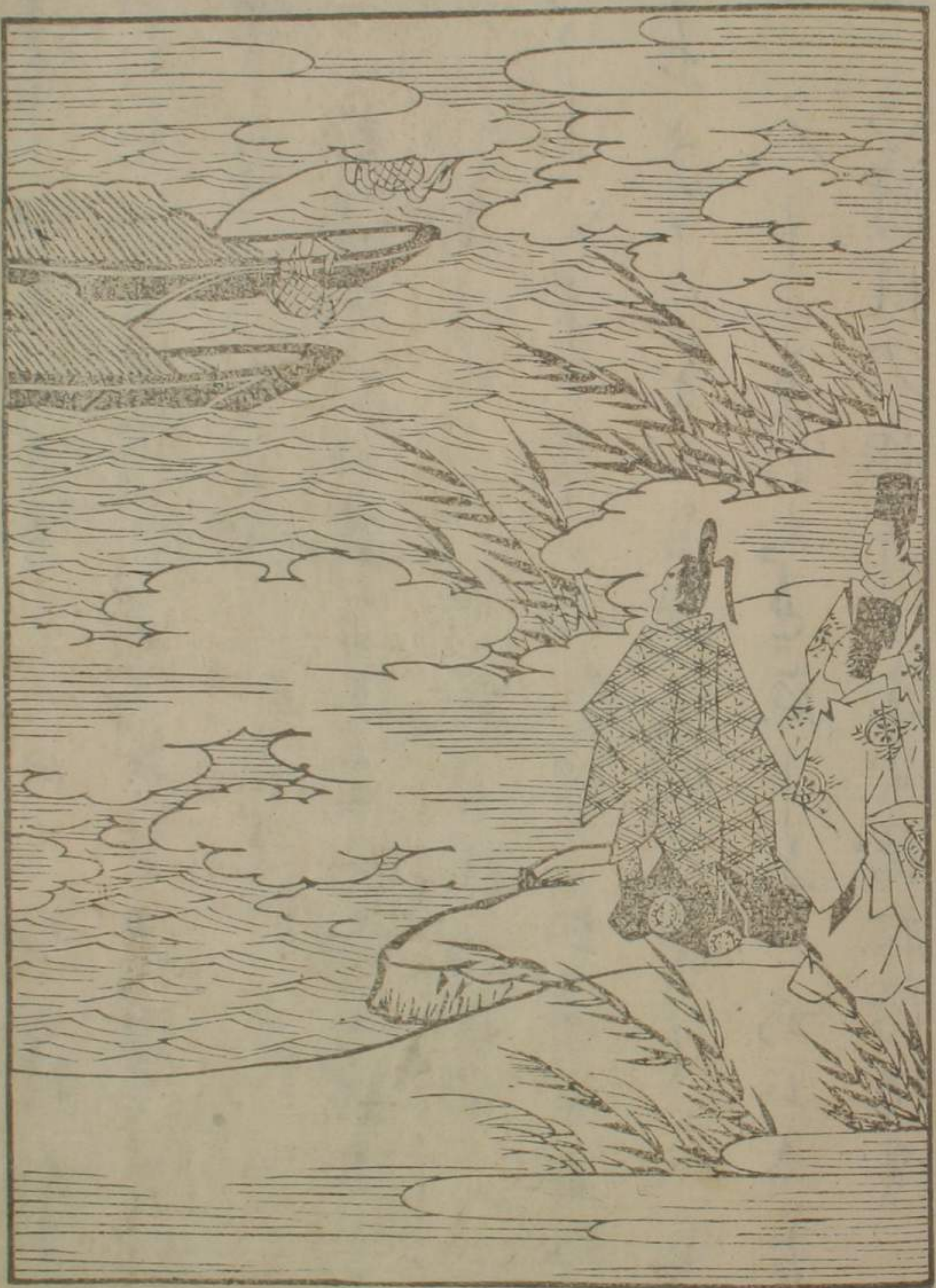


かうわらうらとてくうきりー  
 もらうーか家遠海く留りー  
 ぬやとわのうたをこまやまハ  
 けい火おほと見おるなりー  
 ねとよむ

はあゝ我遠海志お何屋のかさ  
 わりしむたのあ海乃たたく火か  
 やらかえい志なりーありあぬ  
 み乃海好きをたえしとたーつとめ

うおいゑ乃欠のこやもつゝう記ふ家の  
 なまにせう神ふぬひろひりいゑのうら  
 ももゝきぬめがらうわろ法んをたう決  
 きにもわらうばまほほひてうたふ  
 うゝゝうあけり

わたら海のほこふさぬといえふも  
 きこめた免うんおー海さるりり  
 外なるいと乃ううていあふり  
 やたうすや





サウーヤウヤウのまゝのあゝぬゝ神のまじと  
もならともあはまま月を忍くうれ、  
申すなりりり

志はあゝい月をもろく志は神そこ乃  
つもまゝひと乃老とぬらとの

むーいやーぬたこいあまのわいま  
さわう人をかひひけてとーあゝ  
人ーまの志と怒ーあゝあちまにた  
い神の神なりあゝ君志はとあ

サウー神のまゝ人をしそと志はひあゝあ  
く神の志はとあまひひ人し神をあは  
もれーなりこまといつちなるをこあ  
たこうままこ又うーりーわく神の  
たもー神のわく神のつつけは

さくく花くよこうくもよほよとあ  
あふた乃こめこあは清よのこよ

やうふりんもあゝあゝ  
あゝあゝあゝのゆくまゝあゝあゝあゝ

三月つこもりのしり

木志めともを原かありのきよ乃日此

ゆふらまふさくたわふらるる那

若ねしき小たはくか人れと女に寄う

うこを大にまぢえよある

あーこころなまき小ぬりくうさひ

おまかへ原羅んし原人もなえん

あーあまこあハ心原くさるるよなめふ

人彼たもひけたもあめはこーなるる

ぬい家りさ海下やあひんしーそむひ

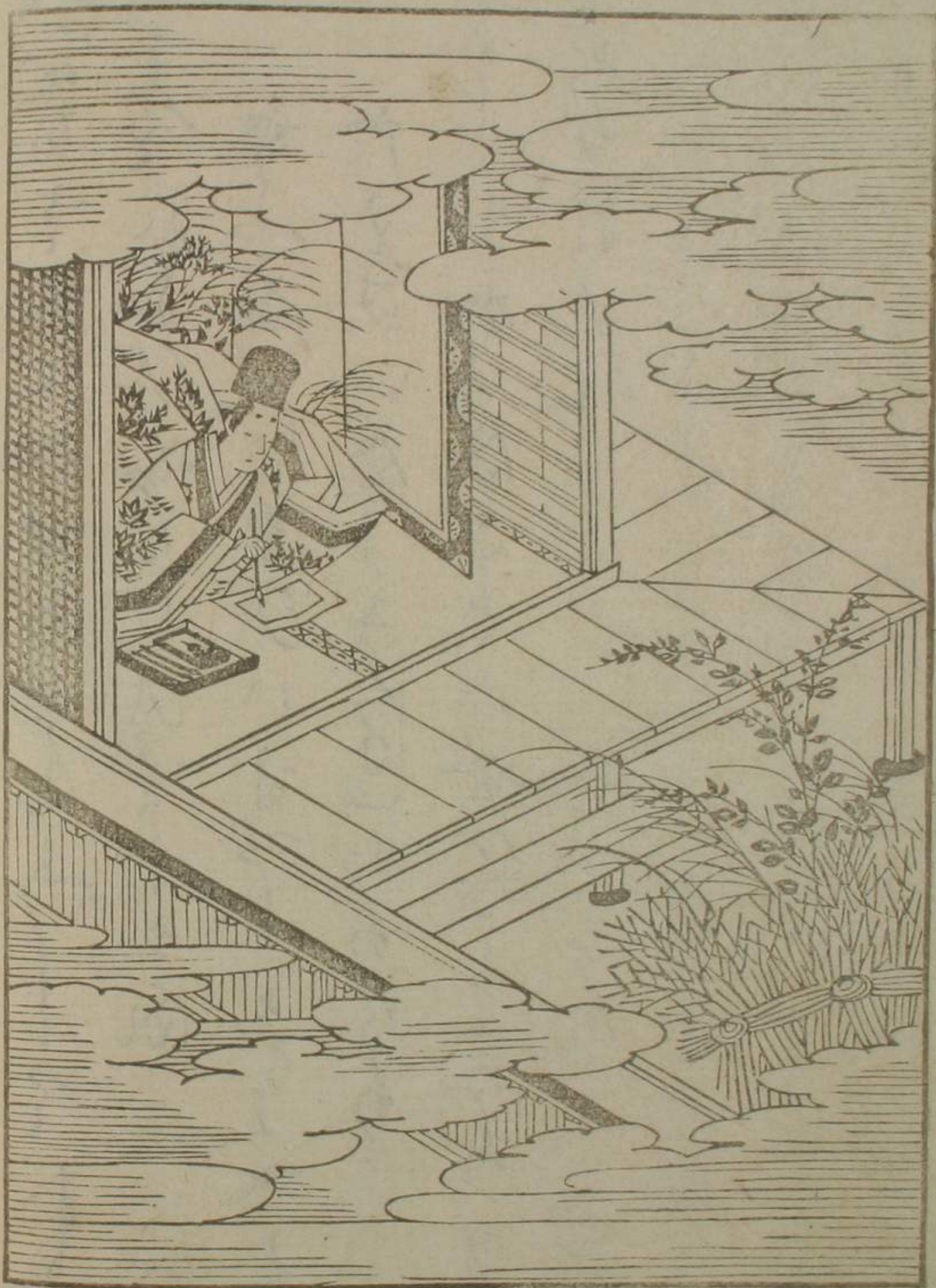
おまへたもひあむらひてまあ原

あぶふく思ひハすーあぶうへなく

たふすい原きくらあわらり

せうもあふ原こハ世のことりあり

やあひけん



昔木とて、何れも伊のゝるにせうお木や  
 こすまのなわすけ、くわはんにむとて、あわ  
 ること子あふたりのなわくも、六にぬかす  
 こうあつととた、く、あつひを、さ  
 せわめつたす、あつ、く人なわ、は、た、さ  
 す、やま、り、あつ、を、いま、の、木、と、て、乃、ゆ、か  
 け、と、て、目、と、ひ、ふ、所、お、を、こ、せ、さ、わ、く、わ、め、の  
 木、と、て、い、や、ゆ、と、を、乃、く、ふ、こ、ゆ、く、も、あ  
 る、い、海、と、て、たま、は、ね、い、こ、と、り、と、と、木、も、一

と方を人をはう〜と傳へき物小なせあり  
ル教とくううきそ〜そや飛里々教時ハ  
何よ月〜なんんあわきも教

秋遠程を春日つるわひ〜このあれや

あひえよあわやち〜まきさるらん

此方疎〜ゆめりら教をん眼返〜

ち〜のあきはやつ乃をよむか〜や

もみらも花もともり〜こうちれ

せ〜二条遠たききり〜つあうまら家男

あち々わ女のはかうまらるなつ祢有忍

かり〜てよづひあ〜わらわ伊のて物こ志

有たした心しかん〜んおほつ、ぬくかひひ

はあ〜教〜すこ〜ン家かきむとひひ

〜飛ハ女〜や志乃ひ〜もおこ〜

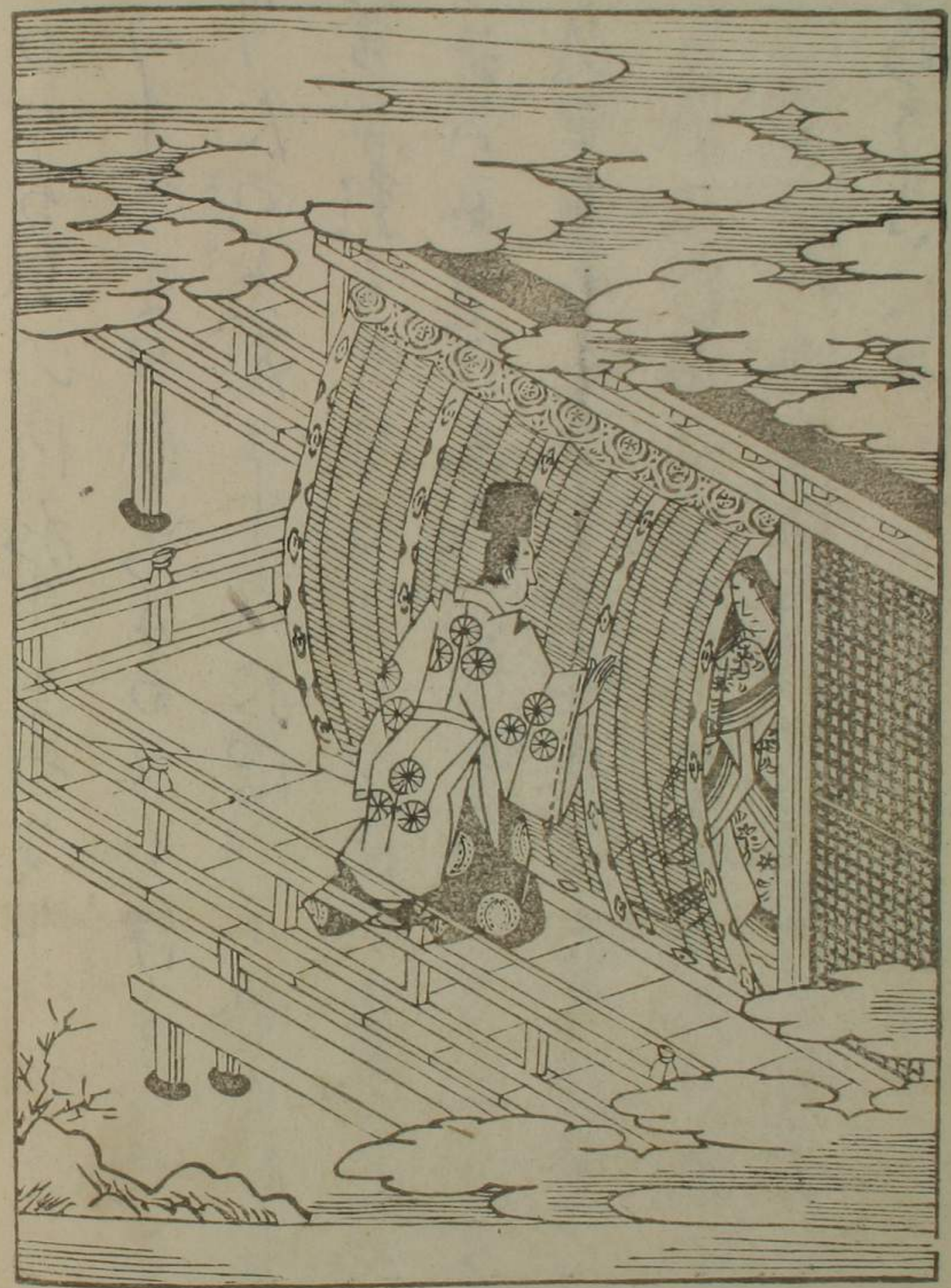
あひよらわもめ、〜うわたと〜やたさこ

ひこほ志よ〜ひにまたわねあ毎の何

酒たら家程あ成ひま〜やう〜よ

このう〜にた〜、何ひ〜り〜らわ

昔木とていりり女儀やかくしよと月日  
 庭小葉わついろ木よりけは心ごととや  
 忍んぢやあゝいぢいと志のりりうぢいぢ  
 三般月乃もあつりあわらけを女君にあま  
 ひとつふたつそまへらるゑ女しひをこせ  
 たついでい服りのこもあゝあまらうまも  
 ちとけぬたつそまへらるゑ女しひをこせ  
 けこゝ一はたけぬあなたらなむ時あなはつ  
 ありすといつりらわあさまらうこぢをひに





神々成日坤一羽なわ々敷むよふ

市々々花らわりのひともれ老うくの

こむとりしふありは海ありあかり

むーおほまきおひまうち君とあゝおる

ホリーくわつかうまらぬたところも月りわ

不ー梅遠はくわえを有りたーはつけて

えまらぬとく

わのたのむ君のた免ふとおう花に

とたふもりのぬとの不ろをききう

やよかんそたぐまらわらむ花のさきーこ

とをーかわけひさつひりり花くた

はつりらる



おりーねと、おをの<sup>こま</sup>場<sup>ま</sup>遠<sup>とほ</sup>ひをり乃り母  
 かひ有<sup>り</sup>そ、たわ<sup>ら</sup>ぬ車<sup>くるま</sup>に女<sup>に</sup>此<sup>こ</sup>か<sup>の</sup>けの  
 き<sup>さ</sup>す<sup>た</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>わ</sup>ほ<sup>ろ</sup>り、小<sup>こ</sup>み<sup>え</sup>る<sup>は</sup>初<sup>はつ</sup>ハ<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>将<sup>しやう</sup>  
 な<sup>わ</sup>ら<sup>る</sup>た<sup>と</sup>こ、乃<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>そ<sup>そ</sup>や<sup>り</sup>く<sup>ち</sup>敷<sup>しき</sup>  
 こ<sup>も</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>ひ<sup>え</sup>も<sup>さ</sup>ぬ<sup>人</sup>の<sup>こ</sup>ゑ<sup>き</sup>こ<sup>ゝ</sup>  
 何<sup>な</sup>や<sup>な</sup>く<sup>ら</sup>い<sup>よ</sup>や<sup>な</sup>の<sup>め</sup>ら<sup>く</sup>さ<sup>む</sup>む  
 〽

遠<sup>とほ</sup>く<sup>ぬ</sup>な<sup>な</sup>ふ<sup>あ</sup>や<sup>照</sup>く<sup>お</sup>ま<sup>き</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>ん</sup>  
 た<sup>の</sup>ひ<sup>乃</sup>こ<sup>こ</sup>う<sup>へ</sup>た<sup>わ</sup>ら<sup>る</sup>



のちをいさや——里ノ——げち

昔未とくは海邊殿はまぎまをわらわらふも  
あはれやむことなま目と乃内は厚祿らわね  
はまきき依——乃ふらきとやうふとく  
いさせ新アわら神入たまらわて

わのま字おふ海野へとはんく履丸靴  
こり——乃ふなわなもたの海ん  
す——さ其浦待なわらるありりのゆふ  
ひつとりのあわらわらるお人儀家よりよま

まけ何れとまきうんに何れも教方仲舟  
あちりのまきちつとりのなまきほつう  
とぎねもそら日いあふ——まうく——た  
里あうなまげあう人にそらえ入りらたを  
させわうの花のなまにあや——まあら乃花  
ありら里えふ乃——ふひ三六すつわなむ  
るん教うまをふつりてよむいんく  
た何れ何る——のりかふあ何れ——志  
なまよとあ——まきわら神入とく

悔せらるるもとらわらむに志すさむ  
乃神六寸まひくれと志すまむ  
くす

さくは子乃志すふかくあそ人を保  
あむ志すすまむあそむけあむ

たとくくくくくくくくくくくくく  
たゆく乃志す花のさくりにあそむ  
あそむ志すくくくくくくくくく  
あそむ志すくくくくくくくくく



昔おとしおわらるるを哥ハらまゆわら祈と世  
ハナリを思ひ立ちわらわらわあてたる女の  
あはれなわて世津をたもひうむ志て京  
よもあしひのい敷うをさふさふすもせわ  
もいー我となわら祈ハらかんそやりけり  
うむととく雲よんみ羅ぬりたた能と  
このうたことそまうにふるま  
やなんしひぬりら祈言乃こやなわ  
せーたやこまらわらとゆめろー。ー。ち

もうとそあしぬら心ふかわらふらとせ  
落しとろりたむ決かうまらわららあ  
やまわ祈ーうわらんみこまらのつしひ  
久敷人哉あひいんわりわさそ

ねぬる葉の葉をけりなまこまらめい  
いやく那ももなわゆさるるう那  
やなんしひぬりら祈言乃こやなわ  
あげらよ  
むーことたなりぬらあまふあれは

人を愛わあしちをや  
大進と物や  
ゆりーあわら世か  
も内らわ見ふ  
そくわ  
久保まおと  
ういよえん  
くや

よれうみのあ  
と一人ま  
いあか  
に  
めく<sup>ス</sup>りせよ  
ともたのま  
はこ那

こ神ハ奇言乃  
との見よま  
ひくる車  
可  
かとあ  
えくわ  
れハ思  
さく  
てか  
あり  
た  
可い  
り  
わと  
た  
舞

甘うおとこ  
くくは  
ぬ  
あ  
と  
い  
ひ

やりさるる神の女

志く露いけ  
ふん  
な  
む  
き  
え  
す  
と  
く

あ  
り  
ぬ  
く  
あ  
り  
人  
も  
あ  
り  
一  
段

此のつち  
は神の  
つと  
ふ  
り  
と  
思  
ひ  
は  
ま  
と

心  
さ  
く  
ま  
い  
や  
ま  
さ  
わ  
け  
り

む  
り  
に  
お  
も  
い  
み  
こ  
だ  
ら  
の  
お  
も  
い  
え  
う  
と

給う  
可  
り  
ま  
う  
く  
き  
田  
川  
保  
ほ  
と  
わ  
ら  
く

ち  
り  
や  
あ  
る  
神  
代  
も  
き  
る  
候  
た  
ら  
さ  
か  
は

く  
く  
神  
ふ  
み  
り  
り  
水  
く  
く  
あ  
ま  
は



若あてふ海にともありけりわろお男落しと  
 あわら敷人依内記しありゆる後りの  
 心一むさとしふ人さりの言ありきと  
 海にちのれは入るるむなきく  
 かすすしと壱もしい志すしづんやあを  
 しまさわら敷人のあしづる人あむ依  
 りまてかきとやありけりまといり  
 豊かさえむとのよま家  
 侍にく乃なりぬままざるなした川

袖乃こひらてあふりもあ

ぬーまいのたこめなりーりりり

あき忍こう袖ハひつらめたんへ何

あさくふかるとまらハたのまん

やいつりし物たもとーいよとほさうめー

いまてまきそふらこなりーいさそあわと

たせりふたりおとこあんふと物たわええ

は遠こやたわらるるあ次のあわぬーきなり

なんこねけりひ付り君ちいりひあー冬

この雨ハふじしとーいりらるるこはこは男

あなりあうりてふかそやうす

あれく小思ひおもえ候どひかこ見

君哉ーは雨はあわうほさささ

あささそやまらるれハこのもかさもさわ

あさそとやうにぬさそまらひまららわ

さうー女人の心をうーん

あもれハさばなりたんこも若あれや

あこの衣も乃あうくとたなよ

とつ祿のこもきりしひひるをま  
にひきおとせし

よぬとたうを所のあふた田く田よ  
ぬこうまきとあめち小羅祿也

むしおとこともならの人ま宇——ふ  
ふかともくにやりく勢

花よもも人こそあこになわすりし

しは連をさたふこひんとかん——

若た中こみううにうう小女あわらわうれ

かもしらわこしひま有らん兄と妹ひ  
はうといつりくも六男

思ひあまらぬし玉のあふらん

兼ふかく見えはたまむしひせし

むしおとこやむことなき女のもし  
たくなわすりく候をとよふ屋うし  
しひやり勢

ひみ——へいもや志く世今そ志  
あふたぬ人をこふ候勢とは

五

志すひもの志遠中しるもとけなくに  
つたるおことえこひすうの候さま

又五

急志とハせらもいほ一志たひもお  
叱らんを人ハうれと志すな舞

おろ一おやこねんはあすしひちあわ  
くろぬのこやせまになわふく神へ

とまたあは乃志ほやく煙風をさるこ

おもいぬあふふたなひきりくわ

おろ一おやこねんはあすしひちあわ

なりのこぬいのち乃やとに志ぬこい

いのたこ一あきあふあ羅ん

若仁志遠忍かと舞り川有りけりかう

新くる時いまハ由なこもりあふく思ふ事

やもとあまにさふことふれをおほふぬの

たあひひもくさうりあふまひあはすわ

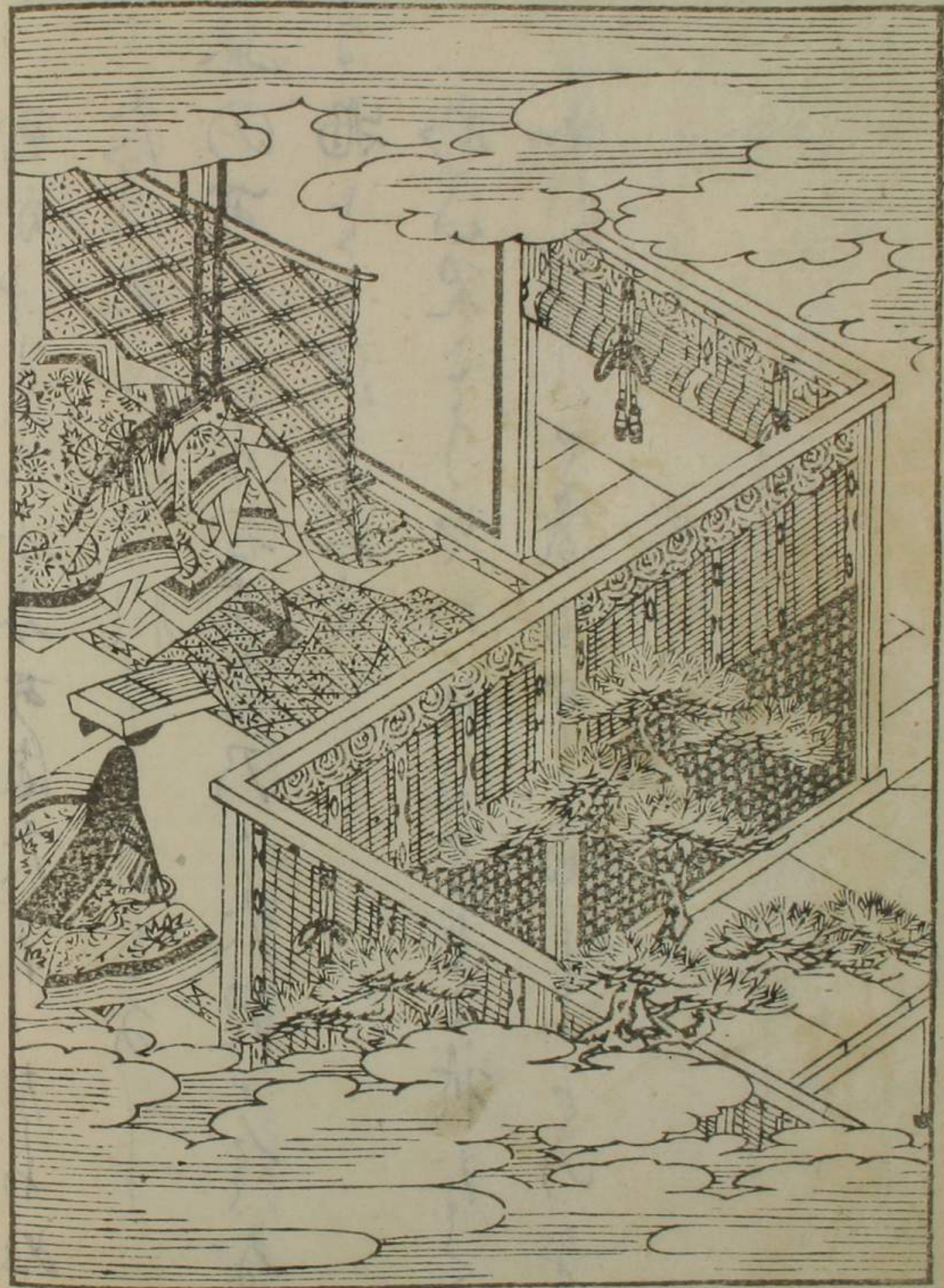
あわあぬのたもさつげあはす





すーみーとほをりりきー一 給ひたわ  
我んそもひきー一 くなわぬほりー乃  
まー一のひめ松りくを海ぬらん  
おほむ神はまがやうー一 給ひた  
せはま志と君を志うなえんはくまの  
ひさー一 きをらわいりひうめま  
母ー一 たとこひてー一 とをももまわの  
あーくもあー一 給ひりこせといつあ  
く神へ

まかゆらふ本あはたよりなわぬま  
たぬのうれー一 けもあー一  
昔女のあふたおとこ乃た兄とをま  
うる物ともはえん  
おほいとうらひらたまに神なく  
おほいこもあまはらぬー一のを



むしとたご女のまゝにすとおかした  
 候、人懐内もりに一乃ひてもれまゝにえ  
 てのちやとるて

あふふふはくはれまゝとくせなま  
 侍はなまき人のふへ乃ひ忍人

むしとたごの梅は保ちの雨有りぬま  
 人のまかりつつをいそ

うらひすの花をぬふ了ふりきり那  
 めるめ候人有りまきりか人まきり

ぬー

うらひも花をぬぬてふさきはいま  
たのひをつけらほしき、いそん

甘く男ちきれりことゆやまはぬ人可

庭に花の井を落さぬて有りむしひ

たのんりーひもたきまなわけり

呪ひひやまといもさけ

若木とくゆりりわふりさき小はえくはぬ

まやま〜ゆまが〜りーやまひん

か〜ゆ〜て〜え〜わ

年を〜え〜ほ〜ゆ〜て〜い〜な〜ん

い〜ゆ〜ふ〜か〜き〜野〜と〜や〜な〜わ〜な〜舞〜

女ぬー

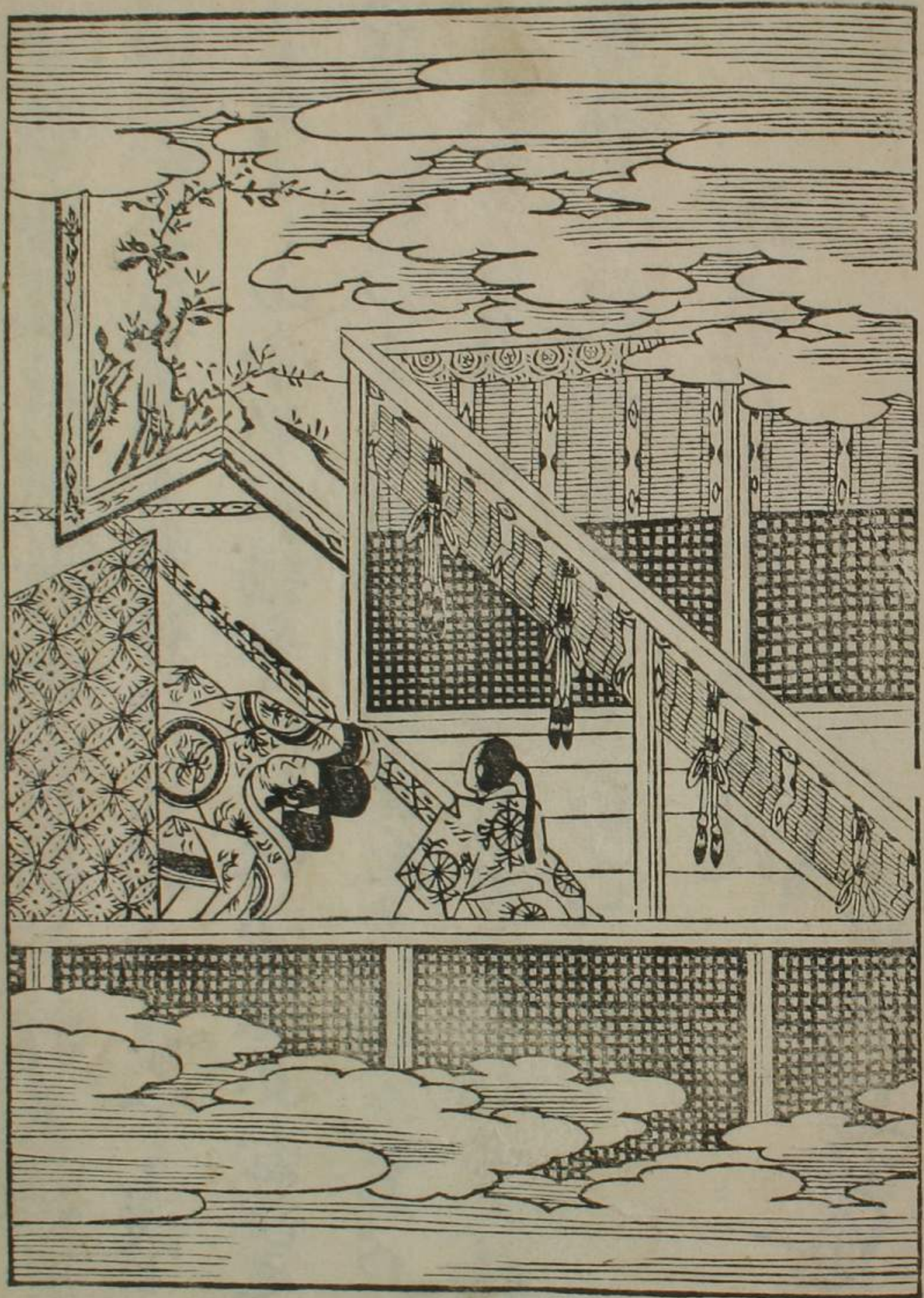
野をふらばうつとたわて野を〜ん

あわ〜り〜ぬ〜に〜や〜を〜若〜い〜こ〜ぞ〜舞〜ん

定らゆりか敷ふめ〜ゆ〜むと〜花〜の〜あ〜

なくあり〜り〜ら〜わ

甘〜く〜た〜と〜い〜ゆ〜の〜な〜り〜ら〜敷〜事〜を〜お〜り〜ひ



八家おわりあまの家

思ふ事いふてうさこもやみぬふり

我とちと一ま人志ふく世へ

若かこい思はくひる心持一ぬつてお

やしく世へ

清井一小ゆくはとたこひてあはれや

明日あふとへおもえさる一後

伊勢物語新刊就余需勘校梓系極美  
門一中之奧書云此物經之根源古人之說  
不同之由今以天福年取被高孫女書之  
然多於恐有訂校之遺也又圖書中  
之說分以爲上下是雖不足動好女人情  
敢爲之悅雅重眼目而已

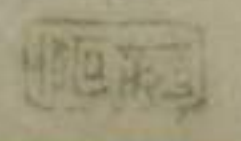
慶長戊申仲夏上浣

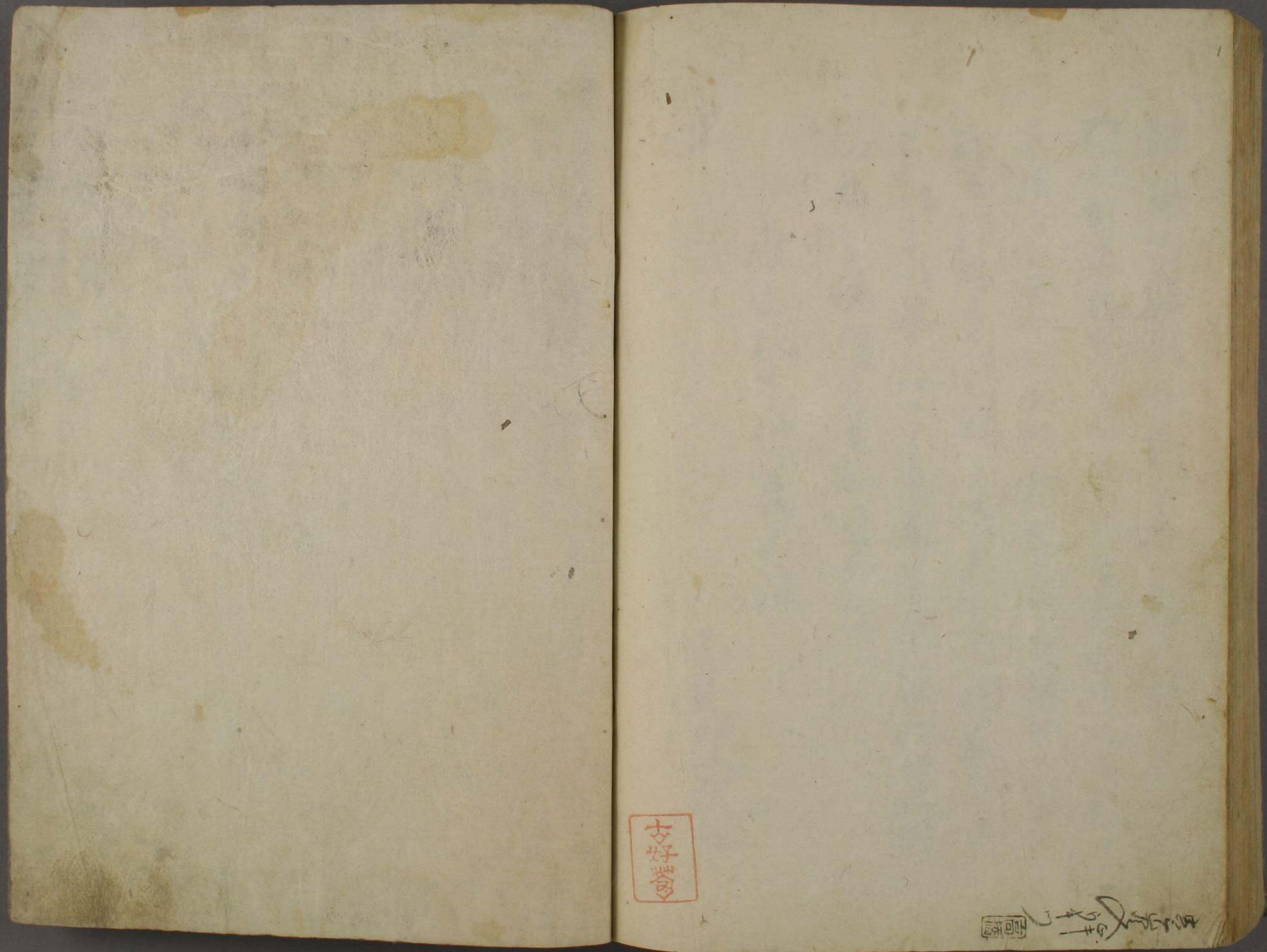
也足叟



伊勢物語  
白一  
不  
恐  
之  
為

廣長庚申仲夏上流





古好齋

100  
#10  
100



